

保 育 学 科 1 年

一 般 教 育 科 目

下関短期大学 保育学科の教育目的・教育目標・学習成果について

【教育目的】

本学の教育理念「温雅礼節」および内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・厚生労働省「保育指針」・文部科学省「幼稚園教育要領」に基づき、保育学科では、以下を教育目的としている。

保育・幼児教育に関する専門知識と技能を養い、社会の多様な保育ニーズに対応できる実力と豊かな人間性を備えた保育者を養成すること

【教育目標】

保育学科は、「知・技・心」の調和のとれた保育者の養成を行うため、3つの教育目標を立てている。

1. 机上の学習を即現場で実践し即応力を磨く
2. コミュニケーションスキルを幅広く学び対応力を磨く
3. 多様な保育内容表現を学び、どのような現場・場所でも活用できる力を磨く

【学習成果】

保育学科の学習成果は、以下3つの観点に基づき、向上・充実を図っている。

1. 保育者としての専門知識・技術を身に付けている
2. 保育者として必要な表現活動における能力を身に付けている
3. コミュニケーション力を持つ豊かな人間性を身に付けている

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|--|-------|-------------------------|---|------------|--------------------------|---|
| 国語とことば | 金 銀英 | 単 独 | L | 必修 選択 2 | 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目 |
| HA1102 | | | | | | |
| 科目(区分) | 教養科目 | | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 選択科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、社会人としての国語(日本語)・コミュニケーションについて学びます。相手を思いやり、場面に応じたコミュニケーションが出来ることを目指し、言葉・漢字・敬語について知識を深め、メモ・レポートなどの文章作成を通じて総合的な国語力を高めます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 50% レポート 20% 授業への参加度 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・相手を思いやり、場面に応じたコミュニケーションが出来ることを目指し、言葉・漢字・敬語を修得する。 ・レポート・書簡などの文章作成を身につけるとともに、総合的な国語力を高める。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 健康と食品・栄養に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 調理・栄養に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | はじめに ―「挨拶」について― | 「温雅礼節」という観点から社会人にふさわしい挨拶について考える | | | |
| | 2 | 書き言葉の種類 | 様々な書式を知り、文の目的に適した書き言葉について学ぶ | | | |
| | 3 | 情報の取り扱いとレポート | 情報の収集方法をはじめとする情報リテラシーについて学ぶ | | | |
| | 4 | レポートの書き方① ―レポートの役割― | 「レポート」の役割・形式を学び、社会人としての作成目的・必要性について考える | | | |
| | 5 | レポートの書き方② ―作成と推敲― | 「レポート」作成を通じて自己の文章力を振り返り、向上のための観点を学ぶ | | | |
| | 6 | 文章要約 ① ―短文の要約― | 短い文章を客観的で分かりやすくまとめる力を身に付ける | | | |
| | 7 | 文章要約 ② ―長文の要約― | 長文の要点を掴み、短い文章に置き換える力を身に付ける | | | |
| | 8 | 作文と「原稿用紙」の書き方 | 「作文」と「レポート」作成の違いに気付き、文章表現の多様性を学ぶ | | | |
| | 9 | 漢字について | 漢字の成り立ちや日本語との関係について学び、国語力を高める | | | |
| | 10 | 熟語について | 漢字の成り立ちや日本語との関係について学び、国語力を高める | | | |
| | 11 | 敬語① ―尊敬表現と謙譲表現― | 敬語の種類について学び、自己の日頃の表現を振り返る | | | |
| | 12 | 敬語② ―応対表現とクッション表現― | 敬語が相手を思いやる日本語表現であることに気付き、実践力の向上に努める | | | |
| | 13 | 手紙について① ―内容と構成― | 日本における一般的な手紙の構成を知り、場合に応じた表現について学ぶ | | | |
| | 14 | 手紙について② ―書き方― | 礼節を重んじた手紙の書き方を知り、書き方について学ぶ | | | |
| | 15 | まとめ ―社会人としての国語力について― | 社会人として相手を思いやる「国語とことば」について考え、自己の国語力向上のための課題をみつける | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input checked="" type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予習-30分程度、復習-1時間程度) (予習)日頃から新聞などをよく読み、報告文に慣れておきましょう。 (復習)毎回行う小テストに備えて学習内容を振り返りましょう。適宜、文章作成の課題を出します。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 授業内容に沿って口頭発表やプレゼンテーションを行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題については、課題ごとにGoogle Classroomで明示する。提出した課題は添削後コメントを添えて返却する。 評価に関する確認は、個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 田上貞一郎「保育者になるための国語表現」(萌文書林) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No. 2

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|--|-------|-------------|--|------------|--|---|
| 現代社会と若者 | 藤澤 正信 | 単 独 | L | 必修 選択 2 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目 |
| HA1103 | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 教養科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | 保育士の資格取得のための 選択科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、青年期の特徴と課題について学びます。現代社会の現状と課題について理解し、青年期の特徴と課題との関係を考察するとともに、青年期の課題を克服し、保育士等として働くことを自覚していきます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 10% 授業への参加度 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・現代社会の現状と課題を認識・理解し、パワーポイントを作成してプレゼンテーションを行う。 ・職業人として社会参加するための基礎知識を身に付ける。 ・現代社会の課題克服における若者の役割について考えることができる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | △ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | ○ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | 本学の学生としての意識 | 「建学の精神(教育理念)」及び沿革を理解し、学生としての意識を高める。 | | | |
| | 2 | 戦後日本の状況について | 高度経済成長から現在までの経済的・社会的推移と現代社会の課題について | | | |
| | 3 | 現代社会の課題① | 新型コロナウイルス感染について | | | |
| | 4 | 現代社会の課題② | 人口減少社会・少子高齢社会・年金制度について | | | |
| | 5 | 現代社会の課題③ | 老々・認知介護 | | | |
| | 6 | 現代社会の課題④ | 人間性の喪失・LGBT・自殺 | | | |
| | 7 | 現代社会の課題⑤ | 日本の食料自給率・食品ロス | | | |
| | 8 | 現代社会の課題⑥ | 空き家・貧困 | | | |
| | 9 | 現代社会の課題⑦ | 国民医療費・待機児童 | | | |
| | 10 | 現代社会の課題⑧ | 後継者不足・人手不足・非正規雇用労働者 | | | |
| | 11 | 現代社会の課題⑨ | 外国人労働者(技能実習生・多文化共生社会) | | | |
| | 12 | 現代社会の課題⑩ | ジェンダー格差 | | | |
| | 13 | 現代社会の課題⑪ | 青年期の課題 | | | |
| | 14 | 現代社会の課題⑫ | 若者の社会や国に対する意識調査(社会の構成員としての自覚) | | | |
| | 15 | まとめ | 社会人・職業人としての自覚 | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週2時間) (予習)最新の情報を得るために新聞報道などに目を通しておきましょう。(1時間) (復習)授業で取り上げられ考察されたことについての自分なりの意見をまとめておきましょう。(1時間) | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 毎回の授業テーマについて担当毎にプレゼン並びにディスカッションを行います。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 提出された課題については、添削し返却します。試験結果の確認には個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 確井真央「よくわかる人間関係の心理学 史上最強図解」(ナツメ社) | | | |

Subject :Modern Society and Young People

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|--|--------------|-----------------------------|--|------------|--------------------------|---|
| くらしと経済 | ◇ 中村 芳喜 | 単 独 | L | 必修 選択 2 | 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目 |
| HA1104 | | | | | | |
| 科目(区分) | 教養科目 | | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 選択科目 |
| 【授業の概要】 この授業では景気、外国為替、財政施策、金融政策そして貯蓄・投資について経済の基本的な内容を現在の状況に即して学びます。その時々々のニュースに合わせて授業テーマは組み替えます。お金を貯めるために勉強して賢くなりましょう。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 70% 授業への参加度 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・社会常識としての、経済の基礎的な仕組みを理解する。 ・日本と世界の経済状況に関心をもち、よりよい貯蓄・投資方法を考えることができる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | 株を買ってみよう | 1000万円を元手に株・金・外貨に投資してみましょう | | | | |
| 2 | 景気について | 「景気が良い(悪い)」とはどういうこと？誰が決める？ | | | | |
| 3 | 外国為替について | 円安になるとガソリンが高くなる… | | | | |
| 4 | 為替と貿易について | 「円高ドル安」は日本経済にとってプラス？マイナス？ | | | | |
| 5 | 景気と需要の関係について | 景気を良くするためには需要を増やせ！ | | | | |
| 6 | 日銀と金融政策① | 日本国内に出回っているお金は全部いくら？ | | | | |
| 7 | 日銀と金融政策② | ゼロ金利政策、マイナス金利政策ってなんですか？ | | | | |
| 8 | 財政政策について | 景気を良くするためには金融緩和？金融引き締め？ | | | | |
| 9 | 物価について | なぜインフレターゲット2%なのか？ | | | | |
| 10 | 国債について | 政府の借金総額はいくらでしょう？ | | | | |
| 11 | 税金と社会保障について | 消費税は10%以上にはならない？ | | | | |
| 12 | 格差と投資について | うまい話にご注意あれ！ローリスクハイリターンは怪しい… | | | | |
| 13 | 投資について | 日経平均ってなに？TOPIXってなに？ | | | | |
| 14 | 外貨投資について | え、利率が年20%？ | | | | |
| 15 | まとめ | 預貯金・資産を増やすために | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)毎日、日経平均株価、円とドル、円とユーロの為替相場・金価格をチェックしましょう。 (復習)毎時間配付するプリントを見直しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 具体的には開講時にお知らせしますが、事前に予約すればいつでも対応します。教科以外の相談もウェルカム。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 ロールプレイング(株主になって株の売買を行います。だれが一番もうけるか、競争です。) | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認等には個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 小暮太一「いままでで一番やさしい経済の教科書」ダイヤモンド社)※毎日、新聞・テレビなどでニュース報道をみてください。 | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|---|--|--------------------|--|------------|--------------------------|--|
| 情報機器操作入門 | 原田 治幸 | 単 独 | S | 必修 選択 2 | 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目 |
| HA1106KC | | | | | | |
| 科目(区分) | 教養科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教育職員免許法施行規則第66条の6 (免許法別表第一備考第4号に規定する文部科学省令で定める科目) | | | | | 保育士の資格取得のための 選択科目 |
| 【授業の概要】 パソコンやGoogleクラスルーム・Gmailの基本的な操作方法等について学び、Microsoft Wordを用いた文書作成の技能の向上を図ります。また、情報社会における危険性とマナーについて学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業時の成果物 70% 授業への参加度 10% 課題・レポート 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・パソコンやその周辺機器に関して基本操作ができる。 ・GoogleクラスルームやGmailによるデータの授受ができる。 ・Microsoft Wordを用いて基本的な文書作成ができる。 ・Microsoft Wordを用いて表作成やオブジェクトの活用ができる。 ・Microsoft Wordを用いて実践的な文書作成ができる。 ・情報社会における危険性とマナーについて理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | ガイダンス | ガイダンス、アカウントやメール等の設定、使用のマナー | | | |
| | 2 | Windowsシステムの基本操作 | Windowsシステムの基本操作 | | | |
| | 3 | Wordの基本操作 起動から提出まで | ファイルの管理、保存の方法、クラスルームによる提出 | | | |
| | 4 | Wordの基本操作 書式設定 | 書式設定、フォント | | | |
| | 5 | Wordの基本操作 文書作成① | 基本的な編集技術 | | | |
| | 6 | Wordの基本操作 文書作成② | 基本的な表作成 | | | |
| | 7 | Wordの基本操作 文書作成③ | 表作成とセル操作 | | | |
| | 8 | Wordによる文書作成① | 様々な表作成① | | | |
| | 9 | Wordによる文書作成② | 様々な表作成② | | | |
| | 10 | Wordによる文書作成③ | オブジェクト利用① | | | |
| | 11 | Wordによる文書作成④ | オブジェクト利用② | | | |
| | 12 | Wordによる文書作成⑤ | 実践的な文書作成① | | | |
| | 13 | Wordによる文書作成⑥ | 実践的な文書作成② | | | |
| | 14 | 情報リテラシーの向上① | 情報通信技術(ICT)の活用 | | | |
| | 15 | 情報リテラシーの向上② | 情報社会における危険性とマナー | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間) (予習)入力などに関する技術的要件が満たされるように、空き時間等に入力の練習をしましょう。 (復習)授業で配布される参考資料を整理し、何度も読んで理解を深めましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示します。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 パソコンを用いての授業です。毎回Googleクラスルームを用いて成果物を提出します。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題の評価の確認には個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「今すぐ使える! Google for Education」 イディーエル株式会社 | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|--|---------------|----------------------------------|------|------------|---|---|
| 生命の科学 | ◇ 森山 敏治 | 単 独 | L | 必修 選択 2 | 1年次 ■前期 2年次 □前期 □後期 □後期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目 |
| HA1107 | | | | | | |
| 科目(区分) | 教養科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | 保育士の資格取得のための 選択科目 | |
| 【授業の概要】 生命の起源を宇宙の創生からたどり、科学的な立場から生命の不思議を体系化していきます。 「仮説を立て、その仮説を実証し、仮説を法則として確立して理論化する」という科学の方法にたって展開していきます。 宇宙と地球そして私たちの存在の結びつきを考え、どのように対象を捉え、どのように得た情報を組み立て、人と共有していくのかその道筋を学びます。 | | | | | 【成績の評価方法】 レポート試験 40% 授業への参加度(含小テスト) 40% 課題(レポート) 20% | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・全宇宙史138億年の概要を知る。 ・生命38億年の歴史とヒトの誕生を関連づけて考えることができる。 ・「見えぬものでもある、見えないけれどもある」ということに気づく。 ・私たちが意志決定するために必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。 ・保育学をヒトの進化と関連づけて考えることができる。 | | | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ◎ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内容 | | | | |
| 1 | 序章 | ①ここはどこ？わたしはだれ？ ②生命とは何か ③生きるということ | | | | |
| 2 | 宇宙の夜明け① | 宇宙の起源(インフレーション宇宙論・ビッグバン宇宙論) | | | | |
| 3 | 宇宙の夜明け② | 銀河と恒星の起源 | | | | |
| 4 | 宇宙の夜明け③ | 新たな化学元素の形成 | | | | |
| 5 | 太陽・太陽系・地球の誕生① | 太陽と太陽系の形成 | | | | |
| 6 | 太陽・太陽系・地球の誕生② | 地球の誕生 | | | | |
| 7 | 生命の誕生① | 地球における生命の誕生 | | | | |
| 8 | 生命の誕生② | 生命の進化①(小さな生命と生物圏) | | | | |
| 9 | 生命の誕生③ | 生命の進化②(大きな生命と生物圏) | | | | |
| 10 | 現生人類への進化① | ホミニンの進化(800万年前から20万年前まで) | | | | |
| 11 | 現生人類への進化② | ホモ・サピエンスの出現 | | | | |
| 12 | 現生人類への進化③ | サルからヒトへ(労働の役割) | | | | |
| 13 | 人間と社会の構造 | 社会の構造とその発展の仕組み | | | | |
| 14 | 未来のヒストリー | これから宇宙と生物はどのように変化していくのか | | | | |
| 15 | 宇宙における人間 | 君たちはどう生きるか | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予習復習合わせ週3時間程度) (予習)講義終了ごとに、科学読み物プリントを配布します。次回講義に備え目を通しておきましょう。 (復習)講義で配布したプリントと講義ノートを見直して整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 講義終了後1時間～2時間は対応します。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 講義内容によっては、ワークシートを用いた討論形式の授業を展開します。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 オフィスアワー及びメール等で対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし(毎時間オリジナル講義プリントを配布します) | | | | | 【参考書等】 「宇宙は何でできているのか」(幻冬舎新書) 「NHKスペシャル人類誕生」(Gakken) 新聞の科学欄、スマホの科学ニュース | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|---|---|-------------------|---|--------------------------------|--|---|
| 英語表現 I | 山本 正俊 | 単 独 | S | 必修 1 選択 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HB1203KC | | | | | <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 外国語科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教育職員免許法施行規則第66条の6 (免許法別表第一備考第4号に規定する文部科学省で定める科目) | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 高校までに学んだ英語の復習を踏まえて、聞く、読むから話す、書くへとつながるタスクを進めながら、言語の4技能を習得していきます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート(課題テスト含む) 20% 授業への参加度 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・基礎的文法力の定着を図る ・「聞く・話す・読む・書く」力を向上させる。 ・リスニングや対話練習でコミュニケーション能力を磨く。 これらを再学習することにより、英語運用のための基礎知識が身につく。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ | | | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ | | | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ | | | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ | | | |
| | | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | 高校英語の復習 | 既習事項の整理 | | | | |
| 2 | See You Soon(1) | 現在形と現在進行形① | | | | |
| 3 | See You Soon(2) | 現在形と現在進行形② | | | | |
| 4 | Welcome to Japan!(1) | 数えられる名詞と数えられない名詞① | | | | |
| 5 | Welcome to Japan!(2) | 数えられる名詞と数えられない名詞② | | | | |
| 6 | Sandy's First Sushi(1) | 代名詞の使い分け① | | | | |
| 7 | Sandy's First Sushi(2) | 代名詞の使い分け② | | | | |
| 8 | Festival Fun(1) | 形容詞と副詞① | | | | |
| 9 | Festival Fun(2) | 形容詞と副詞② | | | | |
| 10 | Play Ball!(1) | 場所の前置詞と時の前置詞① | | | | |
| 11 | Play Ball!(2) | 場所の前置詞と時の前置詞② | | | | |
| 12 | Lucky Cats(1) | Yes/No疑問文とWh疑問文① | | | | |
| 13 | Lucky Cats(2) | Yes/No疑問文とWh疑問文② | | | | |
| 14 | No One Sings Like Brian(1) | 他動詞と自動詞① | | | | |
| 15 | No One Sings Like Brian(2) | 他動詞と自動詞② | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予習復習(授業前後)合わせ、最低1時間) (予習)テキストの新旧単語・表現等を辞書等を使って調べておく。 (復習)Strike while the iron is hot!! | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 毎回の授業テーマに沿って、speaking, writing 等発表実践を行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小テストやレポートは添削し返却する。試験結果の確認等には個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 English Contrasts イングリッシュ・ガイド(金星堂) Robert Hickling 著 | | | | | 【参考書等】 なし | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No. 7

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|---|---|---------------------|--|--------------|--|---|
| 英語表現Ⅱ | 山本 正俊 | 単 独 | S | 必修 1 選択 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HB1204KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 外国語科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教育職員免許法施行規則第66条の6 (免許法別表第一備考第4号に規定する文部科学省で定める科目) | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 高校および、「英語表現Ⅰ」までに学んだ英語の復習を踏まえて、聞く、読むから話す、書くへとつながるタスクを進めながら、言語の4技能を習得していきます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 20% 授業への参加度 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・基礎的文法力の定着を図る。 ・「聞く・話す・読む・書く」力を向上させる。 ・リスニングや対話練習でコミュニケーション能力を磨く。 | | | DPとの関連(大○、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ◎ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | Yui's Cooking Class(1) | 不定詞と動名詞① | | | | |
| 2 | Yui's Cooking Class(2) | 不定詞と動名詞② | | | | |
| 3 | Where's Sandy?(1) | 過去形と過去進行形と現在完了形① | | | | |
| 4 | Where's Sandy?(2) | 過去形と過去進行形と現在完了形② | | | | |
| 5 | Let's Take a Hike(1) | will と be going to① | | | | |
| 6 | Let's Take a Hike(2) | will と be going to② | | | | |
| 7 | Time for a Tour(1) | 助動詞の使い分け① | | | | |
| 8 | Time for a Tour(2) | 助動詞の使い分け② | | | | |
| 9 | Photos from Hakone(1) | 比較級と最上級① | | | | |
| 10 | Photos from Hakone(2) | 比較級と最上級② | | | | |
| 11 | Sho's Barbecue Party(1) | 能動態と受動態① | | | | |
| 12 | Sho's Barbecue Party(2) | 能動態と受動態② | | | | |
| 13 | On the Go(1) | 接続詞の使い分け① | | | | |
| 14 | On the Go(2) | 接続詞の使い分け② | | | | |
| 15 | Grammar Reference | 文法のおさらい、不規則動詞の活用 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予習復習(授業前後)合わせ、最低1時間) (予習)テキストの新出単語・表現等を辞書等を使って調べておく。 (復習) Strike while the iron is hot!! | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 毎回の授業テーマに沿って、speaking, writing 等発表実践を行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小テストやレポートは添削し返却する。試験結果の確認等には個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 English Contrasts イングリッシュ・ガイド(金星堂) Robert Hickling 著 | | | | 【参考書等】 なし | | |

Subject : English Expression II

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------------|---|------------|--|---|----|-----|-----|---|------------|----------------------|---|------|--------------------------|---|----------|----------------------|---|----------|------------|---|-----------|-----------------------|---|---------|--------------------|---|-------------|--------------------------------|---|-----------|---------------|---|--|--|----|--|--|----|--|--|----|--|--|----|--|--|----|--|--|----|--|--|
| ライフスタイルと健康 | 渡邊 義明 | 単 独 | L | 必修 1 選択 | 1年次□前期 2年次□前期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HB1301KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目(区分) | 健康とスポーツ科目 | | | | 教員の免許取得のための必修科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施行規則等に定める科目区分又は事項 | 教育職員免許法施行規則第66条の6(免許法別表第一備考第4号に規定する文部科学省で定める科目) | | | | 保育士の資格取得のための必修科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【授業の概要】 この授業では、健康の概念、体の構造と働き及び生活習慣病について学ぶ中で健康の重要性を理解し、将来、充実した人生を送るためのライフスタイルを考える基礎を培います。また、「人生100年時代」に向け、健康に生きるための取組みについて学びます。 授業での学びが将来の生活に役立つだけでなく、ともに生きる他の人々の健康づくりにも生かして行きます。 ☆公立の学校現場及び教育行政で「発達段階と健康・安全・スポーツ」を指導した経験を授業に反映します。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 20% 授業への参加度 20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・健康の概念について理解する。 ・生活習慣が健康に大きな影響を与えていることを理解する。 ・人間の生活において、健康は生涯を通じて重要な土台となるという認識を高める。 ・7つの健康習慣を自己の日常生活に関連付けて考え、その重要性を理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画】 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>テーマ</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>今なぜ「健康」なのか</td><td>現在社会の特徴と平均寿命・平均余命・死因</td></tr> <tr><td>2</td><td>健康とは</td><td>健康の定義、健康条件、健康の指標、健康の前提条件</td></tr> <tr><td>3</td><td>体の構造と働き①</td><td>血液成分の種類と働き、器官系の種類と働き</td></tr> <tr><td>4</td><td>体の構造と働き②</td><td>循環器系の臓器と働き</td></tr> <tr><td>5</td><td>運動不足と健康障害</td><td>運動不足とは何か、近年の状況、運動不足の害</td></tr> <tr><td>6</td><td>生活習慣と健康</td><td>生活リズム、睡眠と運動、神経の仕組み</td></tr> <tr><td>7</td><td>望ましいライフスタイル</td><td>ブレスローの7つの健康習慣、生活習慣病予防のための食生活指針</td></tr> <tr><td>8</td><td>授業内容の振り返り</td><td>授業内容の再確認、レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> | | | | | | | 回数 | テーマ | 内 容 | 1 | 今なぜ「健康」なのか | 現在社会の特徴と平均寿命・平均余命・死因 | 2 | 健康とは | 健康の定義、健康条件、健康の指標、健康の前提条件 | 3 | 体の構造と働き① | 血液成分の種類と働き、器官系の種類と働き | 4 | 体の構造と働き② | 循環器系の臓器と働き | 5 | 運動不足と健康障害 | 運動不足とは何か、近年の状況、運動不足の害 | 6 | 生活習慣と健康 | 生活リズム、睡眠と運動、神経の仕組み | 7 | 望ましいライフスタイル | ブレスローの7つの健康習慣、生活習慣病予防のための食生活指針 | 8 | 授業内容の振り返り | 授業内容の再確認、レポート | 9 | | | 10 | | | 11 | | | 12 | | | 13 | | | 14 | | | 15 | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 今なぜ「健康」なのか | 現在社会の特徴と平均寿命・平均余命・死因 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 健康とは | 健康の定義、健康条件、健康の指標、健康の前提条件 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 体の構造と働き① | 血液成分の種類と働き、器官系の種類と働き | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 体の構造と働き② | 循環器系の臓器と働き | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 運動不足と健康障害 | 運動不足とは何か、近年の状況、運動不足の害 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 生活習慣と健康 | 生活リズム、睡眠と運動、神経の仕組み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 望ましいライフスタイル | ブレスローの7つの健康習慣、生活習慣病予防のための食生活指針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 授業内容の振り返り | 授業内容の再確認、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせて1時間程度) (予習)次回授業に関するプリントに、しっかり目を通しておいてください。 (復習)授業時の配布資料に再度目を通し、必要事項を加筆して確実にファイルしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 毎回授業テーマについてディスカッションします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題の評価の確認は、個別に対応します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「大学生のスポーツと健康生活」(大修館書店)、「運動処方方の指針」(日本体力医学会体力科学編集委員会) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|----------------------|--|------------|--|---|
| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| スポーツ実技 | 渡邊 義明 | 単 独 | E | 必修 1 選択 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| HB1302KC | | | | | | |
| 科目(区分) | 健康とスポーツ科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教育職員免許法施行規則第66条の6 (免許法別表第一備考第4号に規定する文部科学省で定める科目) | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 将来誰もがライフステージを通じて、それぞれの体力や関心、適正等に応じたスポーツ活動に参画できるように取り組みます。 この授業では、身体活動を通して体力の維持・増進を図るとともに、運動の楽しさや必要性を学んでいきます。また、他者との協力を通じ、良好な人間関係の大切さについても学びます。 ☆公私立の学校現場及び教育行政での体育・スポーツ指導経験を授業に反映します。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 30% レポート 10% 実技 60% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・健康及び体力の保持増進に取り組む。 ・運動の楽しさと必要性を理解する。 ・他者と協力し、積極的に運動に取り組むことができる。 ・各種目の基本的な技術やルールを学ぶ。 ・運動に際しての安全への配慮点を理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | △ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | △ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | ◎ |
| | | | 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 | | | ○ |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション・基礎的な動きづくり① | 授業に関する説明・ゲームを通しての身体活動 | | | |
| | 2 | 基礎的な動きづくり② | ゲームを通しての身体活動 | | | |
| | 3 | バスケットボール① | チームでの基礎及び実践練習① | | | |
| | 4 | バスケットボール② | チームでの基礎及び実践練習② | | | |
| | 5 | バスケットボール③ | リーグ戦① | | | |
| | 6 | バスケットボール④ | リーグ戦② | | | |
| | 7 | バスケットボール⑤ | リーグ戦③ | | | |
| | 8 | バスケットボール⑥ | リーグ戦④ 実技試験 | | | |
| | 9 | ソフトバレーボール① | チームでの基礎及び実践練習① | | | |
| | 10 | ソフトバレーボール② | チームでの基礎及び実践練習② | | | |
| | 11 | ソフトバレーボール③ | リーグ戦① | | | |
| | 12 | ソフトバレーボール④ | リーグ戦② | | | |
| | 13 | ソフトバレーボール⑤ | リーグ戦③ | | | |
| | 14 | ソフトバレーボール⑥ | リーグ戦④ 実技試験 | | | |
| | 15 | バドミントン① | 基本練習 | | | |
| | 16 | バドミントン② | 実践練習・ルール説明 | | | |
| | 17 | バドミントン③ | リーグ戦(ダブルス)① | | | |
| | 18 | バドミントン④ | リーグ戦(ダブルス)② | | | |
| | 19 | バドミントン⑤ | リーグ戦(ダブルス)③ | | | |
| | 20 | バドミントン⑥ | リーグ戦(ダブルス)④ 実技試験 | | | |
| | 21 | レクリエーションスポーツ① | グラウンドゴルフ① | | | |
| | 22 | レクリエーションスポーツ② | グラウンドゴルフ② | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)各種目の基本的なルールを調べておいてください。 (復習)授業終了後、本時の運動量が十分であったか、また、ルールが理解できたかを考えてみてください。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループ活動を中心に進めますので、授業テーマについてのグループディスカッションを行います。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 授業時に、個人・グループそれぞれに対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「スポーツルール2022」(大修館書店)、「グラウンド・ゴルフのルール」(日本グラウンド・ゴルフ協会) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|--|--------|-------------------|---|------------|--------------------------|---|
| キャリア総合 I | 山本 正俊 | オムニバス | S | 必修 1 選択 | 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HB1501KC | | | | | | |
| 科目(区分) | キャリア教育 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 将来社会人(保育者等)として人権感覚や倫理観をもって日々充実した生活を送るために必要な社会人基礎能力を養うことをねらいとします。「自分らしさは・・・」「何を大切にしていくのか・・・」等について、グループワークで他の学生とかわり、自己理解を深めます。また、地域社会や障がい者施設、保育に関わる諸先輩からの講話をもとに、社会人としてのルールやマナーについて考えていきます。 | | | 【成績の評価方法】 レポート(含課題テスト) 60% 授業への参加度 40% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・「温雅礼節」を理解し、実践する。 ・基礎的な学習力及び学習意欲の向上を目指す。 ・キャリア教育の意味を知り、社会人として必要な知識を身につける。 ・地域の「子ども・子育て支援」について理解し、活動に参加する意欲を育てる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | 建学の精神 | 建学の精神に基づく本学理念の理解について(山本) | | | |
| | 2 | 大学における「学び」と「文献検索」 | 大学での学び及び図書館利用法について(金) | | | |
| | 3 | 体験見学① | 体験として附属第一幼稚園を訪問(山本、保育学科教員) | | | |
| | 4 | 体験見学② | 体験として附属第一幼稚園を訪問(山本、保育学科教員) | | | |
| | 5 | キャリア教育講座① | 国及び山口県の資料に基づき知識を深める(山本) | | | |
| | 6 | キャリア教育講座② | キャリアをどう考えるか、事例を通して学ぶ①(山本) | | | |
| | 7 | キャリア教育講座③ | キャリアをどう考えるか、事例を通して学ぶ②(山本) | | | |
| | 8 | 社会人基礎能力① | 具体的な能力について①(山本) | | | |
| | 9 | 社会人基礎能力② | 具体的な能力について①から実践的能力へつなげる取組について(山本) | | | |
| | 10 | 保育と行政① | 下関市との連携:児童養護施設理解(訪問も含む)について(市、山本) | | | |
| | 11 | 保育と行政② | 下関市との連携:家庭支援について(市、山本) | | | |
| | 12 | 「話し言葉」と「書き言葉」 | 日誌や活動記録等保育現場等で使う書き言葉の違いの理解について(山本) | | | |
| | 13 | 自己理解 | さまざまな観点から自己を見つめ、将来の社会参加について(山本) | | | |
| | 14 | グループワーク | 保育現場に関わる様々な事案検討について(山本) | | | |
| | 15 | まとめ | 振り返り(山本) | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予習復習(授業前後)合わせ、最低1時間) (予習)提示した課題に取り組み、期限内に提出すること。 (復習)定期的(実施日は指定しないこともある)に確認小テストを行うので、授業後の内容をしっかり理解する努力をすること。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 授業内でのテーマ別によるグループディスカッションやグループワークを取り入れるので、積極的に参加する。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小テストやレポートは添削し返却する。試験結果の確認等には個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「あなたの子育てを応援します」「しものせき子育て応援団!養成講座」(下関市こども未来部子育て政策課)、学生便覧 | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | | |
|---|--------|-------------------|---|------------|--|---------------------------------|---|
| キャリア・デザイン I | 山本 正俊 | オムニバス | S | 必修 1 選択 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 | 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | |
| HB1503KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 | <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | キャリア教育 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 | | | 【成績の評価方法】 | | | | |
| 将来社会人(保育者等)として人権感覚や倫理観をもって日々充実した生活を送るために必要な社会人基礎能力を養うことをねらいとします。「自分らしさは・・・」「何を大切にしていくのか・・・」等について、グループワークで他の学生とかわり、自己理解を深めます。また、地域社会や障がい者施設、保育に関わる諸先輩からの講話をもとに、社会人としてのルールやマナーについて考えます。さらに、一般教養や人間性を確認することで社会人としての姿勢を身につけていきます。 | | | レポート(含課題テスト) 60% | | | | |
| | | | 授業への参加度 40% | | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | | |
| ・社会人基礎能力を身につけるなかで、自己理解・他者理解・職業理解を通して自分自身の「キャリアプラン」を作成する。 ・自分の「やりたいこと(希望・理想)」と「やれること(能力・技能)」「やるべきこと(使命・価値)」を調整し、自立への自信を考えて「人生のデザイン(設計)」を考える。 | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | | ○ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | | △ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | | ◎ |
| | | | 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 | | | | ○ |
| 【授業計画】 | | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内容 | | | | |
| | 1 | 体験実習事前指導① | 教育実習(幼稚園)に備えて(山本、保育学科教員) | | | | |
| | 2 | 体験実習事前指導② | 教育実習(幼稚園)に備えて(山本、保育学科教員) | | | | |
| | 3 | 仕事に就くために必要な知識 | 前回の授業から改善に向けた次へのステップのグループワーク(山本) | | | | |
| | 4 | キャリアプランニングを考える① | 自分史から振り返る(山本) | | | | |
| | 5 | 自己理解と他者理解① | グループワーク(山本) | | | | |
| | 6 | 自己理解と他者理解② | グループワーク(山本) | | | | |
| | 7 | 下関子育て支援について考える | 下関市こども支援課、SSWを招いて(市、山本) | | | | |
| | 8 | キャリアプランニングを考える② | 適性について(山本) | | | | |
| | 9 | キャリアプランニングを考える③ | 社会人として社会に参加し、社会に貢献することの意味について(山本) | | | | |
| | 10 | チームワークとコミュニケーション | 課題解決プロセスを学び、業務改善や報連相の重要性の理解について(山本) | | | | |
| | 11 | 議論と合意形成(多様な人間関係①) | 家庭教育、障害児教育、親子関係等様々な視点から子どもの気持ちや教育の課題について検討する(山本) | | | | |
| | 12 | 役割分担と協働(多様な人間関係②) | 前回の意見をもとに、プレゼンテーションの準備と発表について(山本) | | | | |
| | 13 | 就職に向けて① | 履歴書、面接等将来の生活について(山本) | | | | |
| | 14 | 就職に向けて② | 敬語・電話応対・身だしなみ等最低限の習慣マナーの実践について(山本) | | | | |
| | 15 | まとめ | 振り返り(山本) | | | | |
| □定期試験 ■その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予習復習(授業前後)合わせ、最低1時間) (予習)提示した課題に取り組み、期限内に提出すること。 (復習)定期的(実施日は指定しないこともある)に確認小テストを行うので、授業後の内容をしっかり理解する努力をすること。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 授業内でのテーマ別によるグループディスカッションやグループワークを取り入れるので、積極的に参加する。 | | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小テストやレポートは添削し返却する。試験結果の確認等には個別に対応する。 | | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「あなたの子育てを応援します」「しものせき子育て応援団！養成講座」(下関市こども未来部子育て政策課)、学生便覧 | | | | |

保 育 学 科 1 年

専 門 教 育 科 目

(保育に関する科目)

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
|---|----------------|-------------------------|------|------------|---|---|
| 保育原理 | ◇ 徳永 良枝 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | |
| HB2101KC | | | | | <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための必修科目 | |
| 施行規則等に定める科目区分又は事項 | 保育の本質・目的に関する科目 | | | | 保育士の資格取得のための必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育の意義や目的について、保育の歴史的展開や子どもの発達特性を踏まえて学びます。保育の基本的な条件は何かを考えながら、発達過程に応じた保育の方法や内容についての理解を深めていきます。さらに、子どもを取り巻く環境の変化にも目を向け、これからの「保育のあり方」に対して認識を高めていきたいと思います。 | | | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 30% プレゼンテーション 10% | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・幼稚園教育要領や保育所保育指針において保育の基本を理解し、保育の意義を認識する。 ・保育の思想や成り立ちについて理解する。 ・保育の現状と課題について考察する。 | | | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | 保育の基本① | 「保育」とは何か | | | | |
| 2 | 保育の基本② | 変化する社会の中で求められる保育・教育のあり方 | | | | |
| 3 | 保育における「子ども理解」 | 子ども理解から始まる保育 | | | | |
| 4 | 保育の制度と現状 | 保育所・幼稚園・認定こども園 | | | | |
| 5 | 保育の歴史 | 日本の保育の変遷と発展 | | | | |
| 6 | 保育の内容 | 保育内容の定義と構造 | | | | |
| 7 | 保育の方法 | 子どもと保育者が共につくる保育 | | | | |
| 8 | 保育の計画 | 保育計画と評価の意義 | | | | |
| 9 | 保育者の専門性と資質向上 | 保育現場のかかわりの中で求められるもの | | | | |
| 10 | 子育て支援 | 現代の家庭と子育て支援 | | | | |
| 11 | 保育でのさまざまな対応 | 多様な子どもの理解と保育 | | | | |
| 12 | 保育の現状と課題① | 保育新聞作り(グループワーク) | | | | |
| 13 | 保育の現状と課題② | プレゼンテーション(グループワーク) | | | | |
| 14 | 保育の現状と課題③ | プレゼンテーション(グループワーク) | | | | |
| 15 | 保育者に求められるもの | 保育の質と評価 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)授業計画に沿ってテキストやレジュメを熟読し、振り返りをして次の授業に出席しましょう。 (復習)12・13・14回では「保育の現状」についてグループワークを行います。乳幼児に関わる記事や出来事について、興味や関心をもったものを2つ集めておいて下さい。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 授業の前後に相談にのります。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 保育の現状と課題に関心を高めるため、グループワークで「保育新聞」を作成し発表をします。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小レポートにより理解度を確認すると共に、疑問点などの対応を行います。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 汐見稔幸、無藤 隆、大豆生田啓友「アクティベート保育学1保育原理」(ミネルヴァ書房) | | | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|---|---------------------|---|--|------------|----------------------|---|
| 子ども家庭福祉 | ◇ 本末 博行 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次□前期 2年次□前期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HB2102KC | | | | | ■後期 □後期 | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の本質・目的に関する科目 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、児童福祉の領域を広く学び、実社会に役立つ知識・技術を習得すると共に、よりよい人間性を追求しつつ、児童の最大の幸福を追求し、社会貢献ができる人材育成を目指します。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 70% レポート 20% 授業への参加度 10% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・子ども家庭福祉の意義と歴史について理解する。 ・子ども家庭福祉の制度や実践の体系について理解する。 ・保育における子ども家庭福祉の関連性について理解する。 ・現在の子どもの家庭福祉の課題や動向について説明できる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | 子ども家庭福祉の理念と概念 | 児童家庭福祉の理念 子ども家庭福祉の歴史の変遷 | | | | |
| 2 | 子ども家庭福祉の歴史の変遷 | 海外及び我が国の子ども家庭福祉の歴史の変遷 | | | | |
| 3 | 子どもの人権擁護と歴史の変遷 | 日本の子ども家庭福祉の先駆者 子どもの人権擁護の国際的な変遷 | | | | |
| 4 | 子どもの人権擁護と現代社会における課題 | 児童の権利に関する条約 第三者評価事業 苦情解決の仕組み | | | | |
| 5 | 子ども家庭福祉の制度と法体系 | 子ども家庭福祉の制度と法体系 | | | | |
| 6 | 子ども家庭福祉行政と実施機関、施設 | 子ども家庭福祉行政と実施機関 児童福祉施設等 | | | | |
| 7 | 子ども家庭福祉の専門職・実施者 | 養護系施設・障害児施設で働く人たち 保育所で働く人たち | | | | |
| 8 | 子ども家庭福祉の現状と課題① | 少子化と地域子育て支援 母子保健と児童の健全育成 | | | | |
| 9 | 子ども家庭福祉の現状と課題② | 多様な保育ニーズへの対応 児童虐待、ドメスティック・バイオレンスの防止 | | | | |
| 10 | 子ども家庭福祉の現状と課題③ | 社会的養護 障害のある子供たちへの対応 | | | | |
| 11 | 非行少年などの対応 | 不登校・少年非行 | | | | |
| 12 | ひとり親家庭・子どもと食育 | ひとり親家庭の暮らし 子どもと食育 | | | | |
| 13 | 現代の子ども家庭福祉の課題と展望 | 子ども家庭福祉の動向と展望 保育・教育・療育保健・医療との連携とネットワーク | | | | |
| 14 | 諸外国の動向 | フランス、イギリス、フィンランド | | | | |
| 15 | 子どもの権利と家族を護る | 児童の権利に関する条約と家族 保育所の社会的責任 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週60分程度) (予習)授業内容のレジュメと共に配付する内容に関連した資料によく目を通しましょう。 (復習)授業中に記入したレジュメをもう一度読み返し、必要な箇所を補いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 必要な場合はその都度連絡してください。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 予習をしてきた内容を学生が発表し、授業を展開します。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 必要に応じて対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「児童の福祉を支える子ども家庭福祉」(萌文書林) 子どもと家庭の福祉を学ぶ(ななみ書房) | | | |

2023年度 授業計画

保育学科 No.14

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
|---|----------------|------------|------------------|---|---|--|---|
| 社会福祉 HB2103KC | ◇ 秋枝 研二 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 | 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の本質・目的に関する科目 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、社会福祉の領域や制度についての基礎を学びます。また、社会のあり方と深いかかわりをもつ福祉の今日的な課題について事例や資料を参考に自分の考えを深めていきましょう。 | | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 20% 授業への参加度 20% | | | |
| | | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | △ | |
| | | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | ○ | |
| 【授業計画】 | | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| | 1 | 社会福祉の概念 | 社会福祉と社会保障 人権について | | | | |
| | 2 | 社会福祉の歴史と意義 | 社会福祉の歴史の変遷 | | | | |
| | 3 | 高齢者福祉① | 領域と制度 | | | | |
| | 4 | 高齢者福祉② | 専門職の業務内容 | | | | |
| | 5 | 障害者福祉① | 領域と制度 | | | | |
| | 6 | 障害者福祉② | 専門職の業務内容 | | | | |
| | 7 | 母子福祉① | 領域と制度 | | | | |
| | 8 | 母子福祉② | 専門職の業務内容 | | | | |
| | 9 | 児童福祉① | 領域と制度 | | | | |
| | 10 | 児童福祉② | 専門職の業務内容 | | | | |
| | 11 | 周辺領域との連携① | 行政との連携 | | | | |
| | 12 | 周辺領域との連携② | 医療・保健との連携 | | | | |
| | 13 | 周辺領域との連携③ | 社会的養護・教育との連携 | | | | |
| | 14 | これからの課題① | 少子高齢化社会への対応 | | | | |
| | 15 | これからの課題② | 在宅福祉・地域福祉の推進 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週2時間程度) (予習)授業終了後、次回のテーマを示すので、自分で調べておきましょう。 (復習)配布した資料をもとにふり返り、要点をまとめておきましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 木曜日14時30分～15時、授業終了後申し出ること | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 順番を決め1人1回社会福祉に関連したニュースを自分で調べ発表する。 | | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認は個別に対応する。 | | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | | 【参考書等】 新川泰弘・宮野安治編著「社会福祉」(青踏社)、各行政機関発行の統計資料 | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|---|----------------|---------------------------|---------------------------------------|------------|--------------------------|--|
| 社会的養護 I | ◇ 仙石 裕樹 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 |
| HB2104KC | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の本質・目的に関する科目 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、社会的養護の基本事項を学びます。社会的養護の対象となる子ども達の現状を知り、その子達に向き合うための基礎的な知識や心構えについても学んでいきます。毎時間スライドとプリントを使って授業を進めます。プリントへの記入とファイリングを各自で行い、定期試験に備えましょう。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・社会的養護の基本理念や仕組みを理解する。 ・社会的養護の対象となる子ども達の実情や、社会的養護の今後の課題を理解する。 ・援助者としての心構えや、果たすべき役割について関心を高める。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | △ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ○ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | ○ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業内容や受講時の注意事項等説明、社会的養護とは | | | | |
| 2 | 社会的養護の基本概念 | 社会的養護の全体像(構造や主要機関)、用語解説 | | | | |
| 3 | 社会的養護の変遷 | 社会的養護の歴史、基本理念 | | | | |
| 4 | 子どもと家庭を取り巻く状況 | 多様化する家庭・子育て環境、複雑化する家庭内の課題 | | | | |
| 5 | 社会的養護の展開 | 社会的養護の現状・課題の理解 | | | | |
| 6 | 社会的養護のシステム | 社会的養護の体系、関係機関 | | | | |
| 7 | 社会的養護に関わる人々の資質 | 関係職種、倫理観、支援者としての心構え | | | | |
| 8 | 社会的養護の現場 | 社会が支える子ども達の生活、現場の声、虐待とは | | | | |
| 9 | 各種施設を知る① | 乳児院、関係職種 | | | | |
| 10 | 各種施設を知る② | 児童養護施設、関係職種 | | | | |
| 11 | 各種施設を知る③ | 障害者利用施設等、関係職種 | | | | |
| 12 | 家庭的養護 | 里親制度、養子縁組、制度の課題 | | | | |
| 13 | 自立支援 | 自立に向けた支援の実情、支援体制 | | | | |
| 14 | 家庭支援 | 家庭への支援の重要性、家庭復帰・再構築 | | | | |
| 15 | まとめ | 他機関との関わり、授業の振り返り | | | | |
| ■定期試験 □その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】事前に連絡があれば、授業の前後に相談等にのります。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 事例を用いたグループワークを行う。毎授業ごとに双方向アンケートを実施する。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護」(みらい) | | | |

| | | | | | | |
|---|----------------|----------------------------|---|-------------------|--|--|
| 授業科目名 発達心理学 I (保育の心理学) | 担当教員名 山脇 寛子 | 担当形態 単 独 | 授業方法 L | 単位数 必修 選択 2 | 開 講 時 期 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の対象の理解に関する科目 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、人は生涯を通して成長・発達し続ける存在であることを知るとともに、その成長・発達を段階ごとに学んでいきます。子ども達の心身の発達や、成長し成人となった後の人の生涯についても学びます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を進めます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・生涯発達の視点から、各段階ごとの心身の成長過程を理解する。 ・各段階の心身の成長に即した関わりを理解する。 ・保育者が子ども達の心身の成長を促す環境の一部であることを理解し、実践への関心を高める。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | ○ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | ○ |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | | △ |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業内容や受講時の注意事項等説明、人の一生 | | | | |
| 2 | 発達とは | ライフサイクル論、生涯発達、受精から胎児期までの様相 | | | | |
| 3 | 乳幼児期の身体発達① | 身体各機能の発達、発達の方向性 | | | | |
| 4 | 乳幼児期の身体発達② | 感覚器官の発達、外界の存在を知る | | | | |
| 5 | 乳幼児期の思考の発達 | 思考の発達(直感的思考)、感情の分化 | | | | |
| 6 | 乳幼児期の人間関係について① | 基本的信頼関係、安全基地、情動調律 | | | | |
| 7 | 乳幼児期の人間関係について② | 愛着の発達、愛着の種類 | | | | |
| 8 | 乳幼児との向き合い方 | 子どもを受け止める、発達の遅れ、気になる子ども | | | | |
| 9 | 乳幼児への関わりの大切さ | 基本的な生活習慣、コミュニケーションの大切さ | | | | |
| 10 | 児童期の心身の発達① | 生活環境の変化と児童期の心身の発達 | | | | |
| 11 | 児童期の心身の発達② | 発達障害、関係機関 | | | | |
| 12 | 青年期 | 青年期の心身の発達、アイデンティティ | | | | |
| 13 | 成人期・老年期 | 成人期と老年期の発達、死について | | | | |
| 14 | 発達に即した関わり | 年齢や発達に即した関わり、各種検査、保育者の役割 | | | | |
| 15 | まとめ | 子どもの発達を促す環境とは、授業内容の振り返り | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 学んだ内容と現場への活かし方についてディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 沼山博・三浦主博「子どもとかわる人のための心理学」(萌文書林)、 長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子「保育の心理を学ぶ」(ななみ書房) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|---|----------------|----------------------------------|--|------------|----------------------------|--|
| 乳児保育 I | 水津 玉美 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次 ■前期 2年次 □前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 |
| HB2301KC | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の内容・方法に関する科目 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、乳児保育の理念や概念を理解し、3歳未満児保育の意義を学びます。3歳未満児の心身の発達の特徴を理解し、乳児保育に携わる上で必要な専門知識を身に付け、「養護」と「教育」の一体性の理解と、未満児保育に必要な「応答的で丁寧な関わり」を学び、教科書にはない現場ですぐに役立つ知識も身に付けていくことを目標とします。毎時間、教科書に沿った内容をスライドで示し、スライドと同じ内容のレジュメを配布して授業を進めていきますので、ファイルに綴じて内容の理解に努め、定期試験に備えてください。 ☆主任保育士として、保育実践及び保育士の指導、育成を行ってきた経験を生かして、保育の現場ですぐに役立つ学びになる授業を進めていきます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% 授業への参加度 20% 課題 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・乳児保育の理念と意義役割を理解する。 ・乳児保育の現状と課題を理解する。 ・乳児の発達を理解し、保育の方法や保育者の配慮について理解する。 ・乳児保育における基本的な援助や関わりを理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション・乳児保育の理念と役割 | 授業の概要 乳児保育の定義、理念、役割、歴史的変遷について | | | |
| | 2 | 乳児保育の現状と課題 | 「保育所」「乳児院」「家庭的保育」「小規模保育」「認定こども園」における乳児保育の現状と課題 | | | |
| | 3 | 乳児保育に関する制度と仕組み | 新制度の仕組みと乳児保育事業 ・ 待機児童問題や乳児保育の実際 | | | |
| | 4 | 児童福祉における乳児保育 | 福祉施設としての乳児保育の理解・児童福祉法や設備・配置基準について | | | |
| | 5 | 月齢別発達の特徴と保育内容 (6か月未満児) | 6か月未満児の発達と保育内容、ねらい及び保育内容、保育者の配慮 | | | |
| | 6 | 月齢別発達の特徴と保育内容 (6か月から1歳3か月未満児) | 6か月から1歳3か月未満児の発達とねらい及び保育内容、保育者の配慮 | | | |
| | 7 | 月齢別発達の特徴と保育内容 (1歳3か月から2歳未満児) | 1歳3か月から2歳未満児の発達とねらい及び保育内容、保育者の配慮 | | | |
| | 8 | 月齢別発達の特徴と保育内容(2歳児) | 2歳児の発達とねらい及び保育内容、保育者の配慮 | | | |
| | 9 | 乳児の心身の発達と保育士の関わりについて | 乳児の心身の発達と愛着形成の重要性、保育士の重要な役目や関わり | | | |
| | 10 | 乳児の言葉の発達・運動能力の発達 | 乳児の言葉の発達・運動能力について、保育士の重要な役目や関わり | | | |
| | 11 | 全体的計画に基づいた指導計画・記録・評価 | 乳児保育の計画 記録及び自己評価の方法・書き方について | | | |
| | 12 | 職員間の連携 ・ 保育の日課と援助 | 連携の重要性・複数担任制の役割・丁寧な関わりと援助の方法 | | | |
| | 13 | デイリープログラム(3歳未満児) | 年齢別デイリープログラムの特徴の理解 | | | |
| | 14 | 地域や関係機関との連携の必要性 | 地域の子育て支援機関・虐待・体罰の早期発見と保育士の役割 | | | |
| | 15 | 保護者との連携と協同(ICT導入の流れ) | 保育の専門性を活かした保護者支援 ・ ICT導入による連絡について | | | |
| ■ 定期試験 ■ その他試験(□ 筆記 □ 実技 □ 口頭試問 □ 発表 ■ 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間) (予習)主に教科書に沿って進めます。事前に授業内容の箇所を読んでおいてください。 (復習)毎時間、項目を記したプリントを配布しますので、授業の内容を復習しファイルにまとめてください。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 乳児理解のための教材を多様に用い、乳児保育について理解を深める。 テーマについてディスカッションを行うことがある。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認には個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 志村聡子「はじめて学ぶ乳児保育」(同文書院) | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|---|----------------|----------------------|---|------------|--|---|
| 乳児保育Ⅱ | 水津 玉美 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HC2302KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の内容・方法に関する科目 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、「乳児保育Ⅰ」で学んだ基礎的理論を基に、保育現場ですぐに実践できる力をつけていきます。乳児保育の学びを深めながら知識と技能を関連付け、乳児担当の保育者として適切に必要な関わり方ができるように実践を通して学んでいきます。保育者として必要な乳児の援助、配慮などを身に付け、未満乳児保育の職員の連携の在り方や重要性を学びを通して身に付けることを目標とします。 ☆主任保育士として、保育実践及び保育士育成指導をしてきた経験を生かし、保育の現場ですぐに役立つ知識と実践力を身に付けていけるような授業を進めます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 実技テスト 40% 課題 40% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・製作した乳児向けおもちゃを通して、乳児期の発達の段階を理解する。 ・「養護と教育を一体的に行う保育」を踏まえて乳児の生活と遊び・保育・環境について具体的に実践的な技能を身に付ける。 ・保護者との連携について理解し、具体的な連絡帳の書き方やトラブルの対応がわかる。 ・実践を通して、応答的で対話的な関わり方、援助方法を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション・課題作品発表① | オリエンテーション・手作りおもちゃ発表① | | | |
| | 2 | 課題作品発表②乳児との関わり方の基本 | 手作りおもちゃ発表②抱っこやおんぶの仕方(人形を使用した実践) | | | |
| | 3 | 乳児衣服の基礎知識と着脱について | 年齢別着脱のポイントと配慮について(人形を使用した実践) | | | |
| | 4 | 乳児の排泄と自立について | 排泄の機能の発達と保育者の関わり方(人形を使用した実践) | | | |
| | 5 | 授乳の基礎知識と方法 | 調乳、授乳の仕方と方法について | | | |
| | 6 | 月齢別離乳食の基礎知識 | 月齢別離乳食の進め方・ガイドラインを理解した介助の仕方 | | | |
| | 7 | 乳児の体を清潔に保つ方法と実践 | 沐浴・清拭についての基礎知識(人形を使用した沐浴の実践) | | | |
| | 8 | 保育環境における衛生管理 | 乳児保育における衛生管理・注意事項や配慮の仕方について | | | |
| | 9 | 乳児期のトラブル | 乳児期に多いトラブルの背景と対処方法・保護者対応について | | | |
| | 10 | 乳児保育における安全管理① | 安全への意識と重要性・薬や病気の扱い方・事故防止(ICTの導入) | | | |
| | 11 | 乳児保育における安全管理② | 日常生活における危険・事故防止・SIDS表の理解(記入実践) | | | |
| | 12 | 保護者との連絡(ICT導入) | 保護者への連絡帳の書き方(ICT活用の流れ) | | | |
| | 13 | 乳児向け未満乳児向け絵本、手遊び、歌遊び | 乳児向け歌遊び、絵本、読み聞かせの実践・発表、アレンジ方法 | | | |
| | 14 | 乳児の成長を園行事につなげる方法 | 乳児の担任としての役割・日々の成長を行事につなげる方法 | | | |
| | 15 | 乳児保育における計画と評価・個別の計画 | 年間指導計画・月案・週案・個別の指導計画の理解・デイリープログラム | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間) (予習)乳児向けのシアターの実践力を養うため、実技発表を行い、実技試験としますので、事前の準備と練習をして下さい。 (復習)実践を通して乳児の発達を理解するよう努め、作品や資料の整理をしてください。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 乳児理解のための教材を多様に使い、グループごとの実践を通して、乳児保育に必要なことを体験しながら身に付ける。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートは次回授業までに提出し、添削後返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 志村聡子「はじめて学ぶ乳児保育」(同文書院) | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
|---|-----------------------------|-------------------------|--|--------------|---|---|
| 音楽演習 I (ピアノ基礎) | 前田 知子 ◇ 榎本 ゆみ ◇ 鳥越未加緒 | 複 数 | S | 必修 選択 1 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| HC2305KC | | | | | | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の内容・方法に関する科目 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、子どもの音楽表現活動を促すための重要な技能のひとつであるピアノ演奏の初歩的な技術を個人・グループレッスンにより身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% 授業への参加度 20% 練習量 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・ピアノの個人レッスン、グループレッスンにより、読譜、種々のリズム、運指法、楽語、子どもの歌唱指導のための適切な伴奏法の基礎を理解する。 ・バイエル教則本前半終了程度の演奏技術を身に付ける。 ・ハ長調の歌のピアノ伴奏を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | バイエルNo.7 | 指の位置について | | | | |
| 2 | バイエルNo.11 | 音の長さについて | | | | |
| 3 | バイエルNo.12 | 右手の練習 | | | | |
| 4 | バイエルNo.13 | 左手の練習 | | | | |
| 5 | バイエルNo.15 | 両手の練習① | | | | |
| 6 | バイエルNo.18 かえるの合唱 | 3拍子の練習① Cdurの弾き歌い① | | | | |
| 7 | バイエルNo.21 | 伴奏について① | | | | |
| 8 | バイエルNo.23 | 両手の練習② | | | | |
| 9 | バイエルNo.25 | 3拍子の練習② | | | | |
| 10 | バイエルNo.27 ぶんぶんぶん | 両手の練習③ Cdurの弾き歌い② | | | | |
| 11 | バイエルNo.29 | タイの練習 | | | | |
| 12 | バイエルNo.31 | 伴奏について② | | | | |
| 13 | バイエルNo.35 チューリップ | 左手のポジションについて Cdurの弾き歌い③ | | | | |
| 14 | バイエルNo.45 | 8分音符の練習① | | | | |
| 15 | バイエルNo.46 | 8分音符の練習② | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:毎日に30分~1時間程度の個人練習) (予習)新しい課題の奏法を理解しましょう。 (復習)課題の練習を日々行いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークによって課題曲の練習に取り組む。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 演奏の評価を個別に伝え、指導を行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 「標準バイエル・ピアノ教則本」(全音楽譜出版社) | | | | 【参考書等】 なし | | |

| | | | | | | |
|--|--------------------------------------|-----------------------------|--|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 音楽演習Ⅱ (ピアノ演奏) | 担当教員名 前田 知子 ◇ 榎本 ゆみ ◇ 鳥越未加緒 | 担当形態 複 数 | 授業方法 S | 単位数 必修 選択 1 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の内容・方法に関する科目 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では「音楽演習Ⅰ」で習得したピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けます。個人・グループレッスンで授業を進めます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 60% 授業への参加度 20% 練習量 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・ピアノの個人レッスン、グループレッスンにより、ダイナミック・アゴーギグ、アーティキュレーション・フレージング、和声、形式等の知識を深める。 ・バイエル教則本終了程度の演奏技術を身に付ける。 ・季節の歌、生活の歌のピアノ伴奏を習得する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回 数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | バイエルNo.48 ハ長調音階 | 付点のリズムの練習 ハ長調の音階の練習① | | | | |
| 2 | バイエルNo.49 | 3拍子の練習 | | | | |
| 3 | バイエルNo.51 | 8分音符の練習 | | | | |
| 4 | 大きなくりの木の下で | Cdurによる季節の歌(弾き歌い①) | | | | |
| 5 | バイエルNo.52 | 6/8拍子の練習① | | | | |
| 6 | バイエルNo.55 | へ音記号について | | | | |
| 7 | バイエルNo.65 | ハ長調の音階の練習② | | | | |
| 8 | バイエルNo.66 | 6/8拍子の練習② | | | | |
| 9 | おべんとうのうた | Cdurによる生活の歌(弾き歌い②) | | | | |
| 10 | バイエルNo.77 | 臨時記号の付く音の練習 | | | | |
| 11 | ト調長音階 うみ | ト長調の音階の練習 Gdurによる季節の歌(弾き歌い) | | | | |
| 12 | バイエルNo.88 | 16分音符の練習 | | | | |
| 13 | へ調長音階 | へ長調の音階の練習 | | | | |
| 14 | たなばたさま | Fdurによる季節の歌(弾き歌い) | | | | |
| 15 | バイエルNo.96 | 3/8拍子の練習 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:毎日30分~1時間程度の個人練習) (予習)新しい課題の奏法を理解しましょう。 (復習)課題の練習を日々行いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークによって課題曲の練習に取り組む。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 演奏の評価を個別に伝え、指導を行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 「標準バイエル・ピアノ教則本」(全音楽譜出版社) | | | | 【参考書等】 なし | | |

| | | | | | | | |
|---|----------------|-------------------------------|--|------------|---|---|---|
| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 | |
| 図画工作 I | 藤井 智行 | 単 独 | S | 必修 1 選択 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | | |
| HB2309KC | | | | | | | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の内容・方法に関する科目 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | | |
| 【授業の概要】 この授業では「色・形・素材」の知識を学び造形活動を行うことで、それらを効果的に扱う基礎を身につけます。保育者として水彩絵の具やコンテパステルなど、その使用方法や表現方法などを習得し、基礎技能能力を身につけるとともに、多視点で物事を捉えながら観察力、想像力、感受性などを高めます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 30% 作品提出 70% | | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・水彩絵の具やコンテパステルなどの基礎技術を習得する。 ・作品テーマに合わせた基礎表現技法を使い分けることができる。 ・保育現場で用いられる描画材料の使用方法を習得する。 ・作者の思いを感じ取り、作品の良さを相手に伝えることができる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | | ○ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | | ◎ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | | ○ |
| 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | | | △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | | |
| 1 | 「図画工作 I」について | 「図画工作 I」についてオリエンテーション、描画材の説明 | | | | | |
| 2 | 図画工作の基礎① | 基礎デッサン(鉛筆の特徴、デッサンの5つの要素) | | | | | |
| 3 | 図画工作の基礎② | 基礎デッサン(人工物のデッサン) | | | | | |
| 4 | 図画工作の基礎③ | 基礎デッサン(自然物のデッサン) | | | | | |
| 5 | 図画工作の基礎④ | 基礎デッサン(水彩画用具の使い方、水彩画技法) | | | | | |
| 6 | 図画工作の基礎⑤ | 基礎デッサン(水彩画) | | | | | |
| 7 | 図画工作の基礎⑥ | 基礎デッサン(水彩画・発表) | | | | | |
| 8 | 図画工作の基礎⑦ | 手を描く(色鉛筆、コンテパステルの使用、描画材の表現方法) | | | | | |
| 9 | 図画工作の基礎⑧ | 手を描く(色鉛筆、コンテパステルの使用、発表) | | | | | |
| 10 | 図画工作の基礎⑨ | 絵画の種類と作者の思い(鑑賞方法) | | | | | |
| 11 | 図画工作の基礎⑩ | 人物を描く(顔のバランス、人物デッサン) | | | | | |
| 12 | 図画工作の基礎⑪ | 人物を描く(顔のバランス、水彩絵の具の注意点と表現方法) | | | | | |
| 13 | 図画工作の基礎⑫ | 人物を描く(水彩絵の具の注意点と表現方法) | | | | | |
| 14 | 図画工作の基礎⑬ | 人物を描く(表現方法と作品解説の準備) | | | | | |
| 15 | 総合評価・解説 | 作品解説、講評 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)各種描画材料を用意するとともに、その使用方法について学んでおきましょう。 (復習)習得した技術の活用方法を考えましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワーク | | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題の評価の確認には個別に対応します。 | | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「造形道具の知識と技能が楽しくしげんに育つ本」(メイト) | | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
|---|----------------|------------------------------|--|------------|---|---|
| 図画工作Ⅱ HC2310KC | 藤井 智行 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育の内容・方法に関する科目 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、「図画工作Ⅰ」の内容をふまえ、保育者としての技能や表現方法をさらに高めながら、デザインや立体造形の基礎技術を身につけていきます。色の三要素や配色など、表現の工夫によって作品が変化していくことを制作しながら学びます。また制作計画を自分で立てることで、物事を見通す力も育んでいきます。作品が完成した達成感や満足感を味わい、造形の楽しみや喜びを感じましょう。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 30% 作品提出 70% DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・色の基礎知識や画面構成などを習得する。 ・立体表現の基礎技術を習得する。 ・素材を活かした作品を制作できる。 ・保育現場で用いられる描画材の使用方法を習得する。 | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | 「図画工作Ⅱ」について | 「図画工作Ⅱ」についてオリエンテーション、色の三要素 | | | | |
| 2 | 図画工作の応用① | デザイン(色の感情、構成美の要素) | | | | |
| 3 | 図画工作の応用② | デザイン(透視図法) | | | | |
| 4 | 図画工作の応用③ | デザイン(配色の工夫、色の面積と配置) | | | | |
| 5 | 図画工作の応用④ | デザイン(画面構成、アイデアスケッチ) | | | | |
| 6 | 図画工作の応用⑤ | デザイン(画面構成、制作) | | | | |
| 7 | 図画工作の応用⑥ | デザイン(画面構成、制作) | | | | |
| 8 | 図画工作の応用⑦ | 立体製作(粘土の種類と特徴、粘土用具の使い方、保存方法) | | | | |
| 9 | 図画工作の応用⑧ | 立体製作(芯材作り・制作) | | | | |
| 10 | 図画工作の応用⑨ | 立体製作(制作・着色) | | | | |
| 11 | 図画工作の応用⑩ | 立体制作(制作・仕上げ) | | | | |
| 12 | 図画工作の応用⑪ | 立体制作(伝統的玩具の種類と特徴) | | | | |
| 13 | 図画工作の応用⑫ | 立体制作(制作) | | | | |
| 14 | 図画工作の応用⑬ | 工芸(染料と染めの種類、染め技法) | | | | |
| 15 | 総合評価・解説 | 作品解説、講評 | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)各種描画材料を用意するとともに、その使用方法について学んでおきましょう。 (復習)習得した技術の活用方法を考えましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワーク | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題の評価の確認には個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「造形道具の知識と技能が楽しくせんに育つ本」(メイト) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|--|------------------|---|--|------------|--------------------------|--|
| 保育実習 I | 水津 玉美 藤井 智行 他 | 複 数 | E | 必修 選択 4 | 1年次□前期 2年次■前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 |
| HC2401CR | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育実習 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 実習体験を通じ、既習の教科で学んだ基礎的理論を基に保育所・児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容や職業倫理、保育について具体的に学びます。現場での実践を通して、自己の保育における計画・記録・自己評価についても理解が深まるよう意識して臨んでください。 ☆主任保育士として、保育現場での実践や指導の経験を生かして、現場で役立つ授業を進めます。 | | | 【成績の評価方法】 実習施設の評価 80% 実習事後書類等の提出 20% | | | |
| 【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育所・児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する。 ・保育士の役割や職務内容、職業倫理について理解する。 ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め身に付ける。 ・保育の計画・観察・評価について具体的に理解する。 | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 実習時期・場所 | | 実習内容・指導内容 | | | | |
| 1年次後期 2～3月(10日間) 児童福祉施設等(保育所以外) | | ○児童福祉施設等の役割や機能の理解 ○施設における保育士の役割、職務内容の理解 ○子ども(利用者)との関わりを通しての理解 ○職業倫理についての理解 | | | | |
| 2年次前期 8月(10日間) 保育所 | | ○保育所の役割や機能の理解 ○保育所における保育士の役割、職務内容の理解と実践 ○観察・関わりを通しての子ども理解 ○職業倫理についての理解 ○保育の計画・観察・評価についての具体的な理解と実践 | | | | |
| □定期試験 ■その他試験(□筆記 ■実技 □口頭試問 ■発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)実習に必要なものは事前に準備し、実習に向けての心構えをしっかりと持ち、実習に臨むようにしましょう。 (復習)実習後は事後指導を受け、反省を今後の保育実践に生かすよう自己の課題を明確にしましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 保育現場での実践において、訪問などを通して直接的な指導を行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導など、実習内容全般においてきめ細かく個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学) 「実習の手引き」(北九州児童養護施設実習連絡会) | | | |

2023年度 授業計画

保育学科 No.24

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | | <input type="checkbox"/> 一般科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
|--|------------------------|--|------|--|----------------------|----------------|--|
| 保育実習指導 I | 水津 玉美 藤井 智行 | 複数 | S | 必修 選択 2 | 1年次 ■前期 ■後期 | 2年次 □前期 □後期 | |
| HC2404C | | | | | | | |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育実習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | | |
| 【授業の概要】 保育実習の意義と目的の理解を深めるとともに、実習と既習の教科内容との関連性を踏まえ、保育実践力を身に付けていきます。保育を丁寧に行うための計画や実践、振り返りを行い「一人ひとりを尊重した保育の実践」ができるような授業を行い、自信を持って現場実践ができるように指導していきます。保育に対する課題を明確にし、保育への向上心を高めていきます。実習指導計画の立案を課題としますので、必ず仕上げて提出して下さい。 ☆主任保育士としての保育実践、新人保育士指導及び保護者支援の経験を授業に反映します。 | | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 実技 30% 課題提出 50% DPとの関連(大○、中○、小△) | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・実習の意義と目的について理解する。 ・保育実習の履修方法と内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・保育所・認定こども園・児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容や保育について理解する。 ・実習施設の選び方について具体的に学び、準備を進める。 ・実習日誌の書き方、指導案の書き方についての基本を理解する。 | | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | | |
| 回次 | テーマ | 内容 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 保育の仕事について | 授業の概要 (授業態度・心構え・マナー・評価等) | | | | | |
| 2 | 保育士の仕事についての理解 | 保育士の仕事について(資格・免許取得後の進路) | | | | | |
| 3 | 保育実習の意義と目的、実習の概要 | 実習の意義と目的についての理解 | | | | | |
| 4 | 保育所の役割と機能について | 子どもの生活を支える保育所の役割・子どもの人権と保育士の援助 | | | | | |
| 5 | 保育実習の心構えと準備、具体的な内容 | 実習の心構えと準備・園の1日の流れについて | | | | | |
| 6 | 保育実習の段階と実習課題について | 見学実習・観察実習、参加実習、部分実習、責任実習について | | | | | |
| 7 | 保育実習の計画と記録について | 実習における計画や記録について(実習日誌の役割・実習日誌の項目) | | | | | |
| 8 | 実習日誌①(年齢別) | 保育の「ねらい」についての理解と書き方 | | | | | |
| 9 | 実習日誌②(年齢別) | 保育の「環境構成」「子どもの活動」の理解と書き方 | | | | | |
| 10 | 子ども理解と観察、指導案について① | 設定保育(ゲーム遊び・運動あそび)指導案の書き方のポイント | | | | | |
| 11 | 子ども理解と観察、指導案について② | 設定保育(製作遊び・折り紙遊び)の指導案の書き方のポイント | | | | | |
| 12 | 様々な施設の特徴と理念について | 様々な施設の特徴と理念・保育内容の理解 | | | | | |
| 13 | 全体的な計画と年間指導計画とつながりについて | 全体的な計画から年間指導計画の立て方・おろし方 | | | | | |
| 14 | 月案、週案、日案のつながりについて | 年間指導計画から月案、週案、日案へのおろし方 | | | | | |
| 15 | 指導案について③ 施設希望調査 | 設定保育(ゲーム遊び)の指導案立案と計画 (アクティブ・ラーニング) | | | | | |
| 16 | 指導案について④ | 設定保育(運動遊び)の指導案立案と計画、実践方法(アクティブ・ラーニング) | | | | | |
| 17 | 指導案に基づいた保育内容の実践について① | 指導案に基づいた保育の具体的な実践① | | | | | |
| 18 | 指導案に基づいた保育内容の実践について② | 指導案に基づいた保育の具体的な実践② | | | | | |
| 19 | 実習日誌・指導案の「ねらい」の書き方 | 「実習のねらい」の立て方 記録に基づく「反省・考察」の書き方について | | | | | |
| 20 | 「ねらい」の書き方 考察・反省の書き方 | 記録に基づく「反省・考察」の書き方について | | | | | |
| 21 | 指導案について⑤ DVD視聴 | 援助・留意点の書き方のポイント 保育実技の方法① | | | | | |
| 22 | 指導案について⑥ | ソーシャルワーク・ソーシャルカードを保育へ活かす方法と実践 保育実技の方法② | | | | | |
| 23 | 指導案について⑦ | (模擬保育) 導入部分の重要性 ・ 導入方法の実践ワーク | | | | | |
| 24 | 施設実習について① | 実習先の選び方、実習施設の種別・類型、施設の役割と機能、施設保育士の業務 | | | | | |
| 25 | 施設実習について② | 子どもや利用者の背景・環境を通じた理解と対応 | | | | | |
| 26 | 施設実習について③ | 子ども(利用者)の観察・把握 子どもの人権について | | | | | |
| 27 | 事前オリエンテーションと心構え | 職業倫理、守秘義務、施設実習の心構え・実習課題の明確化 | | | | | |
| 28 | 施設実習日誌の書き方①(記録・考察) | 施設実習日誌 記録・考察の書き方 | | | | | |
| 29 | 施設実習日誌の書き方② 自己課題設定 | 自己課題設定と具体的な記述 | | | | | |
| 30 | 自己評価と課題の捉え方 | 実習の事後における自己評価の方法、実習前注意事項確認 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□ 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 □ 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週2時間程度) (予習)「実習の手引き」を熟読して授業に臨むようにしよう。 (復習)授業中に配布されるプリントを整理し、実習事前事後の必要な時に確認ができるようにまとめておきましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】模擬保育の実践を通して、ロールプレイングや、グループディスカッションを行う。 | | | | | | | |
| 【課題等への対応】実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導など、きめ細かく個別に対応する。 | | | | | | | |
| 【指定教科書】 「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」(わかば社) 「施設実習パーフェクトガイド」(わかば社) | | | | 【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学) 「実習の手引き」(北九州児童養護施設実習連絡会) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-1

| | | | | | | |
|--|-------------------|---|---|-------------------|-------------------------------------|--|
| 授業科目名 保育実践演習Ⅰ (創作・劇表現) HB2501C | 担当教員名 藤井 智行 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 総合演習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について 考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少 人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを 通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図 る。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、オリエンテーション | | | | |
| 2 | 下関市における児童福祉施設について | 地域の児童福祉施設の現状について学ぶ | | | | |
| 3 | 施設間の連携について | 保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連 携について考える | | | | |
| 4 | 施設間連携と保育者の役割について | 保育者と児童福祉施設の連携について考える | | | | |
| 5 | 施設見学 | 市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に 考える | | | | |
| 6 | 見学後の振り返り① | 市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッション を通じて学びを深める | | | | |
| 7 | 見学後の振り返り② | 見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う | | | | |
| 8 | 地域連携について(まとめ) | 施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える | | | | |
| 9 | 子ども理解について | 初対面「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」につい て理解を深める | | | | |
| 10 | 世代間交流について① | 世代間交流と保育士に求められる資質について考える | | | | |
| 11 | 世代間交流について② | 保育士に求められる社会性について考える | | | | |
| 12 | 子どもと保護者の援助について① | 双方を援助するための方法について考える | | | | |
| 13 | 子どもと保護者の援助について② | 双方を援助するための技術について考える | | | | |
| 14 | 子どもと保護者の援助について③ | 双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認 を行う | | | | |
| 15 | まとめ | 自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表 用の用紙記入) | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 ■発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つ め、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-2

| | | | | | | |
|--|-------------------|---|--|-------------------|---------------------------------------|--|
| 授業科目名 保育実践演習Ⅰ (身体表現) HB2501C | 担当教員名 渡邊 義明 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次 ■前期 2年次 □前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 総合演習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、オリエンテーション | | | | |
| 2 | 下関市における児童福祉施設について | 地域の児童福祉施設の現状について学ぶ | | | | |
| 3 | 施設間の連携について | 保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える | | | | |
| 4 | 施設間連携と保育者の役割について | 保育者と児童福祉施設の連携について考える | | | | |
| 5 | 施設見学 | 市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に考える | | | | |
| 6 | 見学後の振り返り① | 市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める | | | | |
| 7 | 見学後の振り返り② | 見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う | | | | |
| 8 | 地域連携について(まとめ) | 施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える | | | | |
| 9 | 子ども理解について | 「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める | | | | |
| 10 | 世代間交流について① | 世代間交流と保育士に求められる資質について考える | | | | |
| 11 | 世代間交流について② | 保育士に求められる社会性について考える | | | | |
| 12 | 子どもと保護者の援助について① | 双方を援助するための方法について考える | | | | |
| 13 | 子どもと保護者の援助について② | 双方を援助するための技術について考える | | | | |
| 14 | 子どもと保護者の援助について③ | 双方の援助に必要な方法・技術をふまえて、自己の資質能力の確認を行う | | | | |
| 15 | まとめ | 自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入) | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-3

| | | | | | | |
|---|----------------|-------------------|--|-------------------|---------------------------------------|--|
| 授業科目名 保育実践演習Ⅰ (音楽表現) HB2501C | 担当教員名 前田 知子 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次 ■前期 2年次 □前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 総合演習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について 考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少 人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを 通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図 る。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回 数 | 日 数 | テ マ | 内 容 | | | |
| 1 | | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、オリエンテーション | | | |
| 2 | | 下関市における児童福祉施設について | 地域の児童福祉施設の現状について学ぶ | | | |
| 3 | | 施設間の連携について | 保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連 携について考える | | | |
| 4 | | 施設間連携と保育者の役割について | 保育者と児童福祉施設の連携について考える | | | |
| 5 | | 施設見学 | 市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に 考える | | | |
| 6 | | 見学後の振り返り① | 市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッション を通じて学びを深める | | | |
| 7 | | 見学後の振り返り② | 見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う | | | |
| 8 | | 地域連携について(まとめ) | 施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える | | | |
| 9 | | 子ども理解について | 「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」につい て理解を深める | | | |
| 10 | | 世代間交流について① | 世代間交流と保育士に求められる資質について考える | | | |
| 11 | | 世代間交流について② | 保育士に求められる社会性について考える | | | |
| 12 | | 子どもと保護者の援助について① | 双方を援助するための方法について考える | | | |
| 13 | | 子どもと保護者の援助について② | 双方を援助するための技術について考える | | | |
| 14 | | 子どもと保護者の援助について③ | 双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を 行う | | | |
| 15 | | まとめ | 自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表 用の用紙記入) | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つ め、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-4

| | | | | | | |
|---|-------------------|---|---|-------------------|-------------------------------------|--|
| 授業科目名 保育実践演習Ⅰ (保育内容表現) HB2501C | 担当教員名 水津 玉美 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 総合演習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について 考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少 人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを 通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図 る。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、オリエンテーション | | | | |
| 2 | 下関市における児童福祉施設について | 地域の児童福祉施設の現状について学ぶ | | | | |
| 3 | 施設間の連携について | 保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連 携について考える | | | | |
| 4 | 施設間連携と保育者の役割について | 保育者と児童福祉施設の連携について考える | | | | |
| 5 | 施設見学 | 市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に 考える | | | | |
| 6 | 見学後の振り返り① | 市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッション を通じて学びを深める | | | | |
| 7 | 見学後の振り返り② | 見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う | | | | |
| 8 | 地域連携について(まとめ) | 施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える | | | | |
| 9 | 子ども理解について | 「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」につ いて理解を深める | | | | |
| 10 | 世代間交流について① | 世代間交流と保育士に求められる資質について考える | | | | |
| 11 | 世代間交流について② | 保育士に求められる社会性について考える | | | | |
| 12 | 子どもと保護者の援助について① | 双方を援助するための方法について考える | | | | |
| 13 | 子どもと保護者の援助について② | 双方を援助するための技術について考える | | | | |
| 14 | 子どもと保護者の援助について③ | 双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認 を行う | | | | |
| 15 | まとめ | 自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表 用の用紙記入) | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つ め、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-5

| | | | | | | |
|---|----------------|-------------------|---|-------------------|--|--|
| 授業科目名 保育実践演習Ⅰ (特別支援教育研究) HB2501C | 担当教員名 山本 正俊 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次 ■前期 2年次 □前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 総合演習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。 | | | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20% | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。 | | | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | |
| | | | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | ○ |
| | | | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | ○ |
| | | | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | ◎ |
| | | | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | ◎ |
| | | | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | △ |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、オリエンテーション | | | |
| | 2 | 下関市における児童福祉施設について | 地域の児童福祉施設の現状について学ぶ | | | |
| | 3 | 施設間の連携について | 保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える | | | |
| | 4 | 施設間連携と保育者の役割について | 保育者と児童福祉施設の連携について考える | | | |
| | 5 | 施設見学 | 市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に考える | | | |
| | 6 | 見学後の振り返り① | 市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める | | | |
| | 7 | 見学後の振り返り② | 見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う | | | |
| | 8 | 地域連携について(まとめ) | 施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える | | | |
| | 9 | 子ども理解について | 「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める | | | |
| | 10 | 世代間交流について① | 世代間交流と保育士に求められる資質について考える | | | |
| | 11 | 世代間交流について② | 保育士に求められる社会性について考える | | | |
| | 12 | 子どもと保護者の援助について① | 双方を援助するための方法について考える | | | |
| | 13 | 子どもと保護者の援助について② | 双方を援助するための技術について考える | | | |
| | 14 | 子どもと保護者の援助について③ | 双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を行う | | | |
| | 15 | まとめ | 自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入) | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地域の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | | | 【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市) | |

| | | | | | | |
|---|-------------------|---|--|-------------------|---------------------------------------|--|
| 授業科目名 保育実践演習Ⅰ (心理研究) HB2501C | 担当教員名 山脇 寛子 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次 ■前期 2年次 □前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 保育に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 総合演習 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について 考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少 人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを 通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図 る。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方、評価方法、オリエンテーション | | | | |
| 2 | 下関市における児童福祉施設について | 地域の児童福祉施設の現状について学ぶ | | | | |
| 3 | 施設間の連携について | 保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連 携について考える | | | | |
| 4 | 施設間連携と保育者の役割について | 保育者と児童福祉施設の連携について考える | | | | |
| 5 | 施設見学 | 市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に 考える | | | | |
| 6 | 見学後の振り返り① | 市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッション を通じて学びを深める | | | | |
| 7 | 見学後の振り返り② | 見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う | | | | |
| 8 | 地域連携について(まとめ) | 施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える | | | | |
| 9 | 子ども理解について | 「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」につ いて理解を深める | | | | |
| 10 | 世代間交流について① | 世代間交流と保育士に求められる資質について考える | | | | |
| 11 | 世代間交流について② | 保育士に求められる社会性について考える | | | | |
| 12 | 子どもと保護者の援助について① | 双方を援助するための方法について考える | | | | |
| 13 | 子どもと保護者の援助について② | 双方を援助するための技術について考える | | | | |
| 14 | 子どもと保護者の援助について③ | 双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を 行う | | | | |
| 15 | まとめ | 自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表 用の用紙記入) | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つ め、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市) | | | |

保 育 学 科 1 年

専 門 教 育 科 目

(教職に関する科目)

| | | | | | | |
|--|------------------------------------|-----------------------|--|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 教職入門 (保育者論) HC3149KC | 担当教員名 山本 正俊 | 担当形態 単 独 | 授業方法 L | 単位数 必修 選択 2 | 開 講 時 期 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、教育者・保育者として求められる資質や法的立場からの要件を学び、専門職にふさわしい知識や心構えを身に付けます。さらに免許・資格を取得することの社会的意義や責任、子どもの自由と権利の保障、多様化する保育ニーズ等についても学びます。 ☆学校現場及び教育行政での経験を、教職関連科目の授業に反映します。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 70% レポート 10% 授業への参加度 20% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・教職(保育者)の意義や教員・保育士の役割・職務内容について理解する。 ・公教育の目的とその担い手である教員(保育者)の存在意義や職業的特徴を理解する。 ・教職観の変遷を踏まえ教員に求められる役割や基礎的な資質能力を理解する。 ・教員(保育者)の職務の全体像や教員研修の意義、学び続けることの必要性を理解する。 ・教員(保育者)に課せられる服務上・身分上の義務や身分保障について考察できる。 ・教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性に対する関心を深める。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | 「教職入門」を学ぶ意義 | 年間授業計画、到達目標、評価方法、受講の心得等について | | | |
| | 2 | 体験見学① | 体験として付属第一幼稚園を訪問 | | | |
| | 3 | 体験見学② | 体験として付属第一幼稚園を訪問 | | | |
| | 4 | 教育(保育)するということ | 教育・保育者としての視点について 「教育要領」「保育指針」の変遷と「教育・保育要領」の成立について | | | |
| | 5 | 子どもの望ましい姿と教員の役割 | 子どもの「望ましい姿」と教育・保育者としての努力事項について | | | |
| | 6 | 学校制度と教育内容の変遷 | 第一次教育改革から第三次教育改革までの学校制度・教育内容の変遷について | | | |
| | 7 | 子どもの自由と権利の保障 | 日本国憲法の三大原則、児童権利宣言、児童の権利に関する条約、保育制度のおこりについて | | | |
| | 8 | 公務員と保育者について | 身分上の服務等(保育者全般にあてはまることとして)について | | | |
| | 9 | 幼稚園教諭の資格と法 | 教育基本法、学校教育法に位置付けられた幼稚園、幼稚園教諭の免許と幼稚園教諭の研修の機会について | | | |
| | 10 | 保育士の資格と法 | 児童福祉施設職員としての保育士の要件について | | | |
| | 11 | 保育者に関する免許・資格と法 | 認定こども園、幼稚園と保育所等との比較について | | | |
| | 12 | 教職に関する職務の全体像について | 現場における教育・保育と職務について | | | |
| | 13 | 教職・保育職に対する資質向上と服務について | 制度上の位置付けと専門職としての適切な職務遂行について | | | |
| | 14 | 専門職間及び専門機関との連携について | 幼稚園・保育所・子ども園以外の施設との連携や専門職間の協働について | | | |
| | 15 | 保育者のキャリア形成における課題 | 教職の職業的特徴と専門職としての責務の自覚について(レポート課題の作成) | | | |
| ■定期試験 ■その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習) 明治から昭和にかけての日本史や日本国憲法の概要を予習して授業に臨みましょう。 (復習) インターネットを活用し、国の少子化政策や、市の子育て支援について確認しておきましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 授業によってグループワークを取り入れます。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小テストやレポートは添削し返却します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、「保育小六法」 | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|--|----------------------|--------------------|--|------------|--------------------------|--|
| 教育原理 | ◇ 徳野 秀敏 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 |
| HB3102KC | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 |
| 科目(区分) | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では「教育」についてその本質を理解し、日本だけでなく諸外国の教育についても学んでいきます。さらに教育制度と教育行政の基礎も学びます。毎時間、資料を配布して授業を進めていきますので、ファイルに綴じて学習の成果を残し、定期試験に備えてください。 ☆学校現場および教育行政での経験を、教職関連科目の授業に反映します。 | | | 【成績の評価方法】 試験 70% レポート 20% 授業への参加度 10% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・本学の創始者の教育理念等を理解し、学生としての自覚を醸成する。 ・教育学の諸概念や教育の本質・目標について理解する。 ・子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係に対する関心を深める。 ・家族と社会による教育の歴史や近代教育制度の成立と展開、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 ・家庭や子どもに関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想や代表的な教育家の思想を理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション | 本学の沿革、教育理念「温雅・礼節」及び「教育原理」の学習 | | | |
| | 2 | 教育の意義と目的 | 「人間が人間になる」ということ、保育者になるための教育と学び | | | |
| | 3 | 諸外国の教育思想① | 先達の教育思想に学ぶ(コメニウス、ルソー、フレーベル) | | | |
| | 4 | 諸外国の教育思想② | 先達の教育思想に学ぶ(ペスタロッチ、モンテッソーリ) | | | |
| | 5 | 諸外国の教育の歴史 | 諸外国における公教育の発展(フランス、ドイツ、イギリス) | | | |
| | 6 | 近代日本の教育の歩み | 開国・維新と近代化、近代公教育の建設、国民教育の確立と整備、大正デモクラシー、軍国主義体制の強化 | | | |
| | 7 | 戦後の日本の学校教育制度 | 戦後の日本教育のスタート、現代の日本の学校制度「法律に定める学校」 | | | |
| | 8 | 子ども観と教育観① | 日本における近代的子ども観の登場と歴史的変遷 | | | |
| | 9 | 子ども観と教育観② | 西洋における近代的子ども観の登場と歴史的変遷 | | | |
| | 10 | 教育制度の基本 | 近代教育学の起こり、日本の近代教育の起こりと教育制度 | | | |
| | 11 | 教育法規、教育行政の基礎① | 日本の法体系、教育法規にみる現在の教育 | | | |
| | 12 | 教育法規、教育行政の基礎② | 学校安全と学校評価、学校運営協議会とコミュニティ・スクール | | | |
| | 13 | 教育実践の基礎と評価 | カリキュラム、わが国の保育内容、保育方法、計画と評価 | | | |
| | 14 | 地域の中での家庭・幼・保・学校の連携 | 家庭と幼・保・学校の連携、子育て支援体制、地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくり | | | |
| | 15 | 生涯学習社会における教育 | 生涯学習理念の誕生、生涯学習時代の教育制度、社会教育と生涯学習の現代的課題 | | | |
| □定期試験 ■その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)明治維新から現在までの日本史を予習し、日本がどんな社会情勢であったかを理解しておきましょう。 (復習)インターネットで、先人の教育思想や各国の教育制度についてさらに詳しく調べておきましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】授業の前後に相談にのります。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 授業によってグループワークを取り入れます。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小テストやレポートは添削して返却します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)」(チャイルド本社) | | | |

| | | | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------|--|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 教育課程総論 (保育の計画と評価を含む) | 担当教員名 ◇ 徳永 良枝 | 担当形態 単 独 | 授業方法 L | 単位数 必修 選択 2 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための必修科目 | |
| 施行規則等に定める科目区分又は事項 | 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) | | | | 保育士の資格取得のための必修科目 | |
| 【授業の概要】 乳幼児の生活の充実に向け、発達を促す保育や基本となる教育課程・保育課程について学びます。さらに、指導計画作成について、理論と実践の面から学びます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 70% レポート 15% 授業への参加度 15% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・一人ひとりの育ちを保障する保育・教育とは何かを考え、保育・教育の基本について理解する。 ・保育・教育における計画の必要性について、PDCAを通して理解を深める。 ・保育現場における教育・保育課程が有する役割・機能・意義を理解し、関心を高める。 ・教育・保育課程の基本及び現場の保育に即した編成の方法を理解する。 ・発達過程を踏まえたカリキュラムや計画を把握し、必要な指導計画が立案できる。 ・教育・保育課程全体をマネジメントする意義を理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | 保育の基本 | 保育のねらいと内容(教育と養護) | | | | |
| 2 | 教育課程と保育課程① | 教育課程・保育課程の必要性・種類と役割 | | | | |
| 3 | PDCAサイクルに基づいた指導計画 | 教育課程・保育課程の循環性(保育の流れと指導計画) | | | | |
| 4 | 教育課程・保育課程の編成 | 教育課程・保育課程編成の基本 | | | | |
| 5 | 教育課程・保育課程の歴史 | 幼児教育の変遷(幼稚園教育要領・保育所保育指針) | | | | |
| 6 | 教育課程と保育課程② | 指導計画の構成 | | | | |
| 7 | 教育課程と保育課程③ | 保育内容を捉える視点(五領域との関連) | | | | |
| 8 | 指導計画の実際① | 指導計画作成のポイント(配慮すべき事項) | | | | |
| 9 | 指導計画の実際② | 育ちの姿を読み取る指導計画(3歳未満児) | | | | |
| 10 | 指導計画の実際③ | 発達の理解と指導計画(3歳以上児) | | | | |
| 11 | 指導計画の実際④ | 協同性の育ちをとらえた指導計画 | | | | |
| 12 | 小学校教育との連携 | アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム | | | | |
| 13 | 指導計画作成の実践① | 明日につながる指導計画(長期指導計画との整合性) | | | | |
| 14 | 指導計画作成の実践② | 指導計画作成のチェックリスト | | | | |
| 15 | 教育課程・保育課程の再編成 | 評価と改善(教育課程・保育課程の見直し) | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)授業計画に従い、テキストの該当単元を熟読してきて下さい。 (復習)授業の振り返りから各自の疑問や課題を明確にし、講義資料やテキストを復習の上、目的意識をもって次の授業に出席しましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】授業の前後に相談にのります。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 指導計画作成においては、ディスカッションにより幼児理解や援助の方法への理解を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小レポート提出により理解度を確認し、疑問点などの対応を行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 松村 和子・近藤 幹生・柁島 香代著「就学前教育の計画を学ぶ」(ななみ書房) | | | 【参考書等】文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、「幼稚園教育指導資料第1集、第3集、第5集」、「幼稚園教育要領解説(最新版)」 | | | |

Subject :General Curriculum (Including Childcare Planning and Evaluation)

| | | | | | | |
|--|------------------------|--------------|--|------------|--------------------------|---|
| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 教育心理学 HB3104KC | 山脇 寛子 | 単 独 | L | 必修 2 選択 | 1年次■前期 2年次□前期 □後期 □後期 | |
| 科目(区分) | 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身に付けます。各発達段階における心理的な特性を理解し、発達段階に即した関わりや学びを支えるための基本的な考え方についても学びます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・幼児期及び児童期の心身の発達に関する理論を理解し、関心を深める。 ・各発達段階における運動・言語・認知・社会性の発達について理解する。 ・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 ・学習活動を支える指導の基礎や学習評価について理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | ○ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | ○ |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | | △ |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション | 授業概要説明、教育心理学とは | | | |
| | 2 | 教育と心理学 | 教育の場で有用となる心理学的知識、日本の教育 | | | |
| | 3 | 発達段階と発達課題 | 各種発達段階説、発達段階・課題に応じた学び | | | |
| | 4 | 認知機能の発達 | 感覚器の発達、認知の発達 | | | |
| | 5 | 思考の発達 | 思考の発達、表出能力の発達 | | | |
| | 6 | 発達障害 | 発達障害の概念と種類、子どもが抱える大変さ | | | |
| | 7 | 発達障害への支援の考え方 | 障害の特徴に合わせた支援、学びを支える | | | |
| | 8 | パーソナリティ | パーソナリティの考え方、個性・特徴を知る | | | |
| | 9 | 学習① | 学習理論、古典的条件付け、レスポナント条件付け | | | |
| | 10 | 学習② | 観察学習・モデリング、自己強化 | | | |
| | 11 | 知能の仕組み | 知能の発達と仕組み、知能の捉え方 | | | |
| | 12 | 知能検査について | 知能検査、知能検査の結果の扱い | | | |
| | 13 | 動機づけ | 動機づけの種類、動機づけの活かし方 | | | |
| | 14 | 評価 | 学習の評価、やる気の仕組み、レジリエンス | | | |
| | 15 | まとめ | PDCAサイクル、授業のまとめ | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 学んだ内容と現場への活かし方についてディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|---|--------------------|-----------------------|--|------------|--|---|
| 幼児と環境 | 水津 玉美 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HC3203KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 領域に関する専門的事項・環境 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「環境」について理解し、幼児教育・保育において子どもたちを取り巻く環境との関わり方について多面的に学びます。また、望ましい環境についてのイメージを広げます。さらに「ねらい」を達成する為の環境作りについて関心を深め、現場での実践力を身に付けます。 ☆主任保育士としての保育実践、新人保育士指導及び保護者支援の経験を授業に反映します。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 課題 50% 園との交流活動関係 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「環境」について、子どもを取り巻く環境・発達を含めて総合的に理解する。 ・乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解し、関心を深める。 ・子どもにとって望ましい環境作りに対する関心を深め、保育現場にふさわしい環境を考察できる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ◎ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション・「環境」の意義について | 授業の概要・教育・保育における「環境」の意義 | | | |
| | 2 | 生きる力の基礎を育む領域としての「環境」 | 環境の構成について 子どもの好奇心・探求心と環境の関わり | | | |
| | 3 | 子どもの育ちと領域「環境」 | 子どもの発達段階に合わせた保育の環境・子どもの視点から捉える環境 | | | |
| | 4 | 子どもの成長発達と人的・物的環境 | 子ども・家庭・園や地域の人々との関わりと物的環境について | | | |
| | 5 | 子どもを取り巻く社会的環境について | 園・地域社会と関係機関の働きについて | | | |
| | 6 | 子どもの思考・科学的概念の発達と「環境」 | 物の性質と仕組み・数量や図形・文字・標識について | | | |
| | 7 | 子どもを取り巻く自然環境①・身近な生き物 | 非認知能力を育む環境・身近な小動物植物との関わりについて | | | |
| | 8 | 子どもを取り巻く自然環境② | 遊び込める環境の設定について・四季の自然を取り入れた保育内容と実践 | | | |
| | 9 | 子どもの生活と環境① | 子どもの生活に関わりを持つ施設① | | | |
| | 10 | 子どもの生活と環境② | 子どもの生活に関わりを持つ施設② | | | |
| | 11 | 子どもの生活と環境③(様々な行事と保育) | 園の行事と環境の関わりについて(行事に合わせた環境作り) | | | |
| | 12 | 子どもの生活と環境④ | 子どもの生活を取り巻く環境・地域社会とのつながり | | | |
| | 13 | 幼保小連携・接続期の環境について | アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム | | | |
| | 14 | 支援を必要とする子どもの環境 | 環境を通した個別の対応・インクルーシヴ教育と環境設置方法 | | | |
| | 15 | 環境を通した教育・保育の現在の課題 | 社会・保育環境での課題を明確にし、望ましい保育のあり方を考える | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ1時間30分程度) (予習)教育要領、保育指針、教育・保育要領に目を通し、内容を確認しておいてください。 (復習)授業時の配布資料を整理し、効果的に活用できるよう努めてください。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 模擬保育やグループワークを通して、子どもを取り巻く環境について体験しながら理解を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 レポートは次回授業までに提出し、添削後返却する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、酒井幸子ほか「保育内容環境」(萌文書林) | | | |

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | | |
|--|---------------------|---|---|------------|--|---|---|
| 幼児と言葉 | 金 銀英 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 | |
| HC3204KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | | |
| 科目(区分) | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 領域に関する専門的事項・言葉 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」を援助・指導するために必要な専門的事項に関する知識を身に付けます。言葉を使った総合的な指導・援助を行えるようになるため、文章作成・コミュニケーション練習など実践的な学修をふまえながら知識を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 40% レポート 30% 授業への参加度 30% | | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・言葉がもっている意義や機能について理解し、関心を深める。 ・言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉に対する感覚を豊かにする実践について説明できる。 ・言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を実践的に理解する。 ・保育現場で基本となる言葉によるコミュニケーションができる。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | | ○ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | | ◎ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | | ○ |
| 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | | | △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | | |
| 回数 | テーマ | 内 容 | | | | | |
| 1 | はじめに -保育と領域について- | 幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」と領域「言葉」について理解を深める | | | | | |
| 2 | 保育現場における文章表現① | 保育現場で「書き言葉」を使用する日誌・記録等における相応しい表現について学ぶ | | | | | |
| 3 | 保育現場における文章表現② | 保育現場で用いる様々な文章とその書き方を学ぶ | | | | | |
| 4 | 保育現場における文章表現③ | 保育現場でのサンプル文章を用いて分析・評価する | | | | | |
| 5 | 保育現場における文章表現④ | 保育者としての説明・考察を文章で表現するための実践的試行を行う | | | | | |
| 6 | 「ことば」について | 人間にとっての言葉とコミュニケーションについて学ぶ | | | | | |
| 7 | 子どもと「ことば」について | 子どもが言葉を獲得する過程について学ぶ | | | | | |
| 8 | 言葉と領域「言葉」について | 人間にとっての言葉と領域「言葉」について学ぶ | | | | | |
| 9 | 乳幼児期の言葉の発達 | 乳幼児期における言葉の発達を学び、発達に応じた言葉掛けについて考える | | | | | |
| 10 | 「話し言葉」と保育 | 日常の話し言葉と保育の現場で接する様々な場面での話し言葉の違いを理解する | | | | | |
| 11 | 「書き言葉」と保育 | 日誌・記録などの保育現場等で用いられる書き言葉の違いを理解する | | | | | |
| 12 | 接続カリキュラムについて | 領域「ことば」と小学校「国語科」「生活科」の繋がりについて理解する | | | | | |
| 13 | 領域「言葉」と児童文化財① | 絵本や物語などに親しむ保育について学ぶ | | | | | |
| 14 | 領域「言葉」と児童文化財②-実践練習- | 絵本や物語などに親しむ実践的練習・グループワークなどを行う | | | | | |
| 15 | まとめ -保育現場と言語表現- | 現代社会における子ども・子育て支援に必要な保護者・地域住民とのコミュニケーションについて考える | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input checked="" type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予習-1時間程度、復習-1時間半程度) (予習)幼稚園教育要領・保育所保育指針など領域「言葉」に関する記述を熟読し、日頃から絵本や紙芝居に親しんでおきましょう。 (復習)毎回行う小テストに備えて学習内容を振り返りましょう。適宜、文章作成の課題を出します。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 授業内容に沿って口頭発表やプレゼンテーション、グループワークを行う。 | | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題については、課題ごとにGoogle Classroomで明示する。提出した課題は添削後コメントを添えて返却する。 評価に関する確認は、個別に対応する。 | | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド本社)、古橋和夫「保育者のための言語表現の技術」(萌文書林) | | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.32

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 | |
|---|--------------------|---------------------------------|---|------------|--|---|--|
| 幼児と音楽表現 | 前田 知子 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 | | |
| HC3206KC | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | | |
| 科目(区分) | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための必修科目 | | |
| 施行規則等に定める科目区分又は事項 | 領域に関する専門的事項・表現 | | | | 保育士の資格取得のための必修科目 | | |
| 【授業の概要】 この授業では保育現場において必要な音楽表現を学ぶことを目標としています。保育者としての音楽表現の基礎を身に付けます。具体的には、歌唱・楽器表現や身体表現の関わりについて実践的に学びます。毎時間、動きやすい服装で臨んで下さい。 | | | 【成績の評価方法】 | | | | |
| | | | 定期試験 60% 授業への参加度 20% 課題発表 20% | | | | |
| | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ | | | | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ | | | | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ | | | | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ | | | | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の音楽面における発達段階を理解する。 ・保育現場における音楽表現の基礎を身に付ける。 ・音楽表現の楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できる。 ・音楽表現を通じて、より豊かな子どもの表現につなげることへの関心を深める。 | | | | | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | | |
| 1 | 音楽基礎 | 保育者に必要な音楽基礎知識について | | | | | |
| 2 | 幼児と音楽的な表現 | 幼児期の心身の発達・表現の発達に合わせた音楽的な表現について | | | | | |
| 3 | 音楽表現の基本① | ビート(拍)、ダイナミクスとテンポ、拍子について | | | | | |
| 4 | 音楽表現の基本② | ビート(拍)、ダイナミクスとテンポ、拍子による表現方法について | | | | | |
| 5 | 音楽表現とリズム | 日常の遊びから学ぶ音・言葉のリズムの指導法について | | | | | |
| 6 | 音楽表現とメロディの構成要素について | リズムパターンとフレーズについての実践 | | | | | |
| 7 | 歌唱・手遊びについて① | 保育者に求められる表現する力を身に付ける練習方法について | | | | | |
| 8 | 歌唱・手遊びについて② | 保育者に求められる表現する力を実践・発表する | | | | | |
| 9 | 楽器による表現について① | 楽器による効果音を取り入れた表現方法について | | | | | |
| 10 | 楽器による表現について② | 効果音や即興演奏の方法と実践について | | | | | |
| 11 | 季節・行事と童謡・わらべ歌① | 保育現場で伝統的に歌い継がれている歌唱の特徴と意義について | | | | | |
| 12 | 季節・行事と童謡・わらべ歌② | 保育現場で伝統的に歌い継がれている歌唱と遊び方の支援について | | | | | |
| 13 | 児童文化財と音楽表現① | 童謡などの音楽に合わせたパネルシアターの表現について(制作) | | | | | |
| 14 | 児童文化財と音楽表現② | 童謡などの音楽に合わせたパネルシアターの表現について(練習) | | | | | |
| 15 | 児童文化財と音楽表現③ | 童謡などの音楽に合わせたパネルシアターの表現について(発表) | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習) 平日頃から絵本や童謡などにふれ、どのような児童文化財があるか調べるなど予習しておきましょう。また事前に出た課題曲は必ず練習しておきましょう。 (復習) 授業の内容を振り返り、自分の課題をまとめ、改善できるように努めましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 毎回授業テーマについてディスカッションを行う。実践(実技)が必要な場合はグループワークやロールプレイを行う。 | | | | | | | |
| 【課題等への対応】 実践を要する課題の発表などはその場でアドバイスを加える。試験結果の確認には個別に対応する。 | | | | | | | |
| 【指定教科書】 今泉明美、有村さやか(編著)、望月あけ美、宮川萬寿美、東元りか、高地誠子(著)「子どものための音楽表現技術」(萌文書林) | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、神原雅之「1～5歳のかんたんリトミック」(ナツメ社)、清野由紀子「なかよしあそびうた」(トレミ楽譜) | | | | |

Subject :Music Expression for Infant

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|--|------------------|--------------|--|------------|-----------------|---|
| 幼児と造形表現 | 藤井 智行 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次 ■前期 2年次 □前期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| HC3207KC | | | | | □後期 □後期 | |
| 科目(区分) | 領域及び保育の指導法に関する科目 | | | | | 教員の免許取得のための必修科目 |
| 施行規則等に定める科目区分又は事項 | 領域に関する専門的事項・表現 | | | | | 保育士の資格取得のための必修科目 |
| 【授業の概要】 この授業では、乳幼児における造形表現の姿や発達を理解し、造形表現についての知識・技能、表現力を身に付けます。具体的には、保育現場で必要とされる基本的な造形表現技術を習得することを目的とし、豊かな表現力を培います。 | | | 【成績の評価方法】 | | | |
| | | | 定期試験 60% | | | |
| | | | 授業への参加度 10% | | | |
| | | | 作品提出 30% | | | |
| | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | ○ |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・乳幼児の造形表現の姿や発達について理解する。 ・造形表現の基礎的な技術を身に付ける。 ・造形表現の楽しさを実感し、他者の表現を受け止めて共感し、より豊かな表現への関心を深める。 | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | ◎ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | ○ |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | | △ |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | 造形表現の意義 | オリエンテーション、保育における造形表現の意味 | | | |
| | 2 | 表現を育む人になる① | 自分を感じる、感性を磨く 「フィンガー・ペインティング」 | | | |
| | 3 | 表現を育む人になる② | 心をひらく、受け入れる、子どもの心に還る 「ドリップング」 | | | |
| | 4 | 子どもの造形表現の発達① | 造形表現の発達論 「吹き流し」 | | | |
| | 5 | 子どもの造形表現の発達② | 子どもの描画の特徴とその背景 「しゃぼん玉はじき」 | | | |
| | 6 | 子どもの造形表現の発達③ | 発達に即した援助 乳児期～幼児期前期 「フロッタージュ」 | | | |
| | 7 | 子どもの造形表現の発達④ | 発達に即した援助 幼児期前期～学童前期 「デカルコマニー」 | | | |
| | 8 | 子どもの造形表現の発達⑤ | 発達に配慮した援助 「手形アート」 | | | |
| | 9 | 子どもの造形表現の発達⑥ | 発達過程に見られる個人差 「マーブリング」 | | | |
| | 10 | 造形表現指導の実際① | 指導のねらい 「スタンピング」 | | | |
| | 11 | 造形表現指導の実際② | 保育者の役割 「バチック」 | | | |
| | 12 | 造形表現指導の実際③ | 指導形態 「形切り・浸し染め」 | | | |
| | 13 | 造形表現指導の実際④ | 間接的な援助、直接的な援助 「ステンシル」 | | | |
| | 14 | 造形表現指導の実際⑤ | 表現の動機と意欲 「スチレン版画」 | | | |
| | 15 | 造形表現指導の実際⑥ | 表現の個人差との読み取り 「紙版画」 | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)各種、指定された画材・描画材料などを用意するとともに、その使用方法について予め学んでおきましょう。 (復習)習得した表現を振り返り、保育現場における活用方法を考えてみましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 課題提出を確認した後、個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 槇 英子「保育をひらく造形表現」(萌文書林) | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.34

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | |
|--|---------------------------|---------------|--|------------|--------------------------|--|
| 保育内容総論 | ◇ 徳永 良枝 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 |
| HC3213KC | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 |
| 科目(区分) | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 保育内容の指導法(情報機器及び機材の活用を含む。) | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 子どもの発達過程や子育ての実態を踏まえ、子どもの育ちを支える保育のあり方を学びます。子どもの主体性を尊重するために、子どもの理解の大切さ、保護者の援助のあり方、環境の構成、小学校教育の学びへのつながり、家庭との連携など具体的な視点から考えていきます。 さらに実践につなげるために様々なエピソードをもとにグループワークを行い、保育内容をどのように考え、展開していけば良いか、自分なりの考えを持ち、理解を深めていきます。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 70% レポート 15% グループ演習 15% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・子どもの育ちを保障とする保育とは何かを理解し、保育内容や保育方法について学ぶ。 ・幼稚園・保育所の生活や発達に応じた保育者の関わりを理解する。 ・遊びと学びの関係を知り、子どもの遊びの大切さを説明することができる。 ・遊びの記録やエピソードを通してグループ演習することで、多様な保育の中で保育者の援助について理解を深め、自分の考えを表現する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | 保育の基本 | 保育内容のとらえ方 | 育みたい資質と能力 | | |
| | 2 | 子どもの理解 | 子どもをみるまなざしと保育者の役割 | | | |
| | 3 | 子どもの遊びと生活 ① | 主体的な学びを生み出す保育 | | | |
| | 4 | 子どもの遊びと生活 ② | 遊びの中での学び (遊びの実践) | | | |
| | 5 | 子どもの遊びと生活 ③ | 子どもの育ちと保育者の援助 | | | |
| | 6 | 子どもの発達と援助 ① | 子どもと「対話する」遊び | | | |
| | 7 | 子どもの発達と援助 ② | 「応答する対象」としての子ども | | | |
| | 8 | 子どもの発達と援助 ③ | 発達や時期的な変化を読み取る援助 | | | |
| | 9 | 遊びと学び | 遊びの分析と援助のあり方(5領域との関連) | | | |
| | 10 | 主体性を尊重する保育 | 子どもの世界をのぞく(グループワーク) | | | |
| | 11 | 養護と教育の一体化 | 生活の中での子どもの姿 | | | |
| | 12 | 環境を通して行う保育 | 子どもの主体性が生まれる環境の構成 | | | |
| | 13 | 個と集団の育ちを支える保育 | 保育の多様な展開(グループワーク) | | | |
| | 14 | 家庭や地域との連携 | 子育て支援 小学校との接続 | | | |
| | 15 | 社会の変化に応じた保育 | 学びと育ち 生活と遊びをつなげる保育 | | | |
| ■定期試験 □その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)授業計画に従い、該当単元のキーワードや保育の現状に興味・関心をもちましょう。 (復習)授業の振り返りで各自の疑問や課題を明確にし、講義資料やレポートを振り返り、目的意識をもって次の授業に出席して下さい。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】授業の前後に相談にのります。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 遊びの実践やグループワークを通して、保育内容について様々な視点から話し合い理解を深めます。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 小レポート提出により授業の理解度を確認し、疑問点などの対応を行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」、(チャイルド本社)、「幼稚園教育指導資料第1集、第3集、第5集」、「幼稚園教育要領解説(最新版)」 | | | |

Subject :The childcare contents general remarks

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開講時期 | |
|--|---|--------------------------|--|------------|--------------------------|--|
| 教育相談 | 山脇 寛子 | 単 独 | S | 必修 選択 1 | 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 |
| HC3302KC | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 |
| 科目(区分) | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法 | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、教育相談の理論や援助技術の意義、原則などを学びます。子どもや保護者の置かれた状況を把握し、的確な援助へと繋げるために必要となるケースマネジメントの基本やアセスメントについても学び、教育相談における基礎を培います。カウンセリングの基本的な知識や技法等について、ロールプレイ等を取り入れながら実践的に学んでいきます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。 | | | 【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・教育相談が持つ役割や、教育相談に関わる心理学的理論を理解する。 ・カウンセリングの基礎的な知識を理解し、関心を深める。 ・カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を身に付ける。 ・状況に応じたアセスメントや援助体制作りの必要性を理解する。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | | ○ |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | | △ |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | | ○ |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | | ◎ |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | | ◎ |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | オリエンテーション | 授業概要等説明、自身の体験と「相談」の役割について | | | |
| | 2 | ニーズの多様化 | 多様化する保育ニーズの実際、子どもと保護者を取り巻く環境 | | | |
| | 3 | 相談援助の理論 | 人と環境の相互作用、マクロ・メゾ・ミクロレベルでの支援、 ストレス視点、エコシステム | | | |
| | 4 | 教育相談が持つ機能 | 個・集団・地域との関わり、家庭への関わり、関係調整 | | | |
| | 5 | 相談援助技術の過程 | 問題を捉える視点、援助計画、ケースマネジメント | | | |
| | 6 | 援助者自身の意識 | 規範意識、自分の許容度の把握 | | | |
| | 7 | 守秘義務 | 情報の収集と守秘義務、記録の扱い | | | |
| | 8 | 相談援助技術① 距離感 | 空間の扱い方、パーソナルスペース、相談に適した環境 | | | |
| | 9 | 相談援助技術② 非言語的コミュニケーション | 表情、姿勢、音声、自分の癖を探る | | | |
| | 10 | 相談援助技術③ 共感 | カウンセリングマインド、受容・共感する姿勢 | | | |
| | 11 | 相談援助技術④ 共感を言葉で伝える | 共感を言葉にする、労いや支えとなるフレーズ | | | |
| | 12 | 相談援助技術⑤ 関係構築 | ラポール形成、相手の立場に立つ、他者理解 | | | |
| | 13 | 事例検討 | 相談内容の整理、ロールプレイ | | | |
| | 14 | 社会資源の活用 | 関係機関や社会資源、協働体制 | | | |
| | 15 | まとめ(教育相談の意義について) | 保護者を支える意識とスキル、授業内容の振り返り | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 学んだ内容と現場への活かし方についてディスカッションを行う。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.36-1

| | | | | | | |
|--|----------------|-----------------|---|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 児童文化I (創作・劇表現) HB3501KC | 担当教員名 藤井 智行 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 大学が独自に設定する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(創作・劇表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | ○ | | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | ○ | | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | ◎ | | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | ◎ | | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | △ | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回 | 日数 | テーマ | 内 容 | | | |
| 1 | | ガイダンス・クラス分けについて | 授業概要・評価の観点と授業計画について | | | |
| 2 | | 活動計画について | 本授業の活動における具体的な計画を立てる | | | |
| 3 | | 発表媒体作成・内容表現検討① | 各クラスで表現媒体(原案作成)を行う | | | |
| 4 | | 発表媒体作成・内容表現検討② | 各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る | | | |
| 5 | | 発表媒体作成・内容表現検討③ | 各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える | | | |
| 6 | | 発表媒体・内容表現作成 | 各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う | | | |
| 7 | | 中間発表① | 発表方法について試行する | | | |
| 8 | | 発表媒体・内容表現の見直し① | 発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う | | | |
| 9 | | 発表媒体・内容表現の見直し② | 中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| 10 | | 中間発表② | 改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える | | | |
| 11 | | 発表媒体・内容表現の仕上げ① | 改善点をふまえ修正・制作を行う | | | |
| 12 | | 発表媒体・内容表現の仕上げ② | リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| 13 | | 「創作発表会」リハーサル | リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する | | | |
| 14 | | 「創作発表会」 | 本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う | | | |
| 15 | | まとめ・振り返り | 「創作発表会」に対する反省と振り返り | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □その他 □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょ。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

Subject :Arts and Culture for Children I

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.36-2

| | | | | | | |
|--|-----------------|--------------------------------------|--|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 児童文化 I (身体表現) HB3501KC | 担当教員名 渡邊 義明 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 大学が独自に設定する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(身体表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | ○ | | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | ○ | | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | ◎ | | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | ◎ | | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | △ | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| セッション回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | ガイダンス・クラス分けについて | 授業概要・評価の観点と授業計画について | | | | |
| 2 | 活動計画について | 本授業の活動における具体的な計画を立てる | | | | |
| 3 | 発表媒体作成・内容表現検討① | 各クラスで表現媒体(原案作成)を行う | | | | |
| 4 | 発表媒体作成・内容表現検討② | 各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る | | | | |
| 5 | 発表媒体作成・内容表現検討③ | 各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える | | | | |
| 6 | 発表媒体・内容表現作成 | 各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う | | | | |
| 7 | 中間発表① | 発表方法について試行する | | | | |
| 8 | 発表媒体・内容表現の見直し① | 発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う | | | | |
| 9 | 発表媒体・内容表現の見直し② | 中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う | | | | |
| 10 | 中間発表② | 改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える | | | | |
| 11 | 発表媒体・内容表現の仕上げ① | 改善点をふまえ修正・制作を行う | | | | |
| 12 | 発表媒体・内容表現の仕上げ② | リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う | | | | |
| 13 | 「創作発表会」リハーサル | リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する | | | | |
| 14 | 「創作発表会」 | 本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う | | | | |
| 15 | まとめ・振り返り | 「創作発表会」に対する反省と振り返り | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □その他 □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.36-3

| | | | | | | |
|--|----------------|-----------------|---|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 児童文化 I (音楽表現) HB3501KC | 担当教員名 前田 知子 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 大学が独自に設定する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(音楽表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | ○ | | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | ○ | | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | ◎ | | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | ◎ | | |
| 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | △ | | | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回次 | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | ガイダンス・クラス分けについて | 授業概要・評価の観点と授業計画について | | | |
| | 2 | 活動計画について | 本授業の活動における具体的な計画を立てる | | | |
| | 3 | 発表媒体作成・内容表現検討① | 各クラスで表現媒体(原案作成)を行う | | | |
| | 4 | 発表媒体作成・内容表現検討② | 各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る | | | |
| | 5 | 発表媒体作成・内容表現検討③ | 各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える | | | |
| | 6 | 発表媒体・内容表現作成 | 各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う | | | |
| | 7 | 中間発表① | 発表方法について試行する | | | |
| | 8 | 発表媒体・内容表現の見直し① | 発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う | | | |
| | 9 | 発表媒体・内容表現の見直し② | 中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| | 10 | 中間発表② | 改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える | | | |
| | 11 | 発表媒体・内容表現の仕上げ① | 改善点をふまえ修正・制作を行う | | | |
| | 12 | 発表媒体・内容表現の仕上げ② | リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| | 13 | 「創作発表会」リハーサル | リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する | | | |
| | 14 | 「創作発表会」 | 本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う | | | |
| | 15 | まとめ・振り返り | 「創作発表会」に対する反省と振り返り | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □その他 □試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょ。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

Subject :Arts and Culture for Children I

| | | | | | | |
|--|----------------|-----------------|--|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 児童文化Ⅰ (保育内容表現) HB3501KC | 担当教員名 水津 玉美 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 大学が独自に設定する科目 | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 | |
| 【授業の概要】 保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(保育内容表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| フェーズ | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | ガイダンス・クラス分けについて | 授業概要・評価の観点と授業計画について | | | |
| | 2 | 活動計画について | 本授業の活動における具体的な計画を立てる | | | |
| | 3 | 発表媒体作成・内容表現検討① | 各クラスで表現媒体(原案作成)を行う | | | |
| | 4 | 発表媒体作成・内容表現検討② | 各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る | | | |
| | 5 | 発表媒体作成・内容表現検討③ | 各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える | | | |
| | 6 | 発表媒体・内容表現作成 | 各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う | | | |
| | 7 | 中間発表① | 発表方法について試行する | | | |
| | 8 | 発表媒体・内容表現の見直し① | 発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う | | | |
| | 9 | 発表媒体・内容表現の見直し② | 中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| | 10 | 中間発表② | 改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える | | | |
| | 11 | 発表媒体・内容表現の仕上げ① | 改善点をふまえ修正・制作を行う | | | |
| | 12 | 発表媒体・内容表現の仕上げ② | リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| | 13 | 「創作発表会」リハーサル | リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する | | | |
| | 14 | 「創作発表会」 | 本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う | | | |
| | 15 | まとめ・振り返り | 「創作発表会」に対する反省と振り返り | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□ 筆記 ■ 実技 □ 口頭試問 ■ 発表 ■ 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.36-5

| | | | | | | |
|--|-----------------|--------------------------------------|---|-------------------|-------------------------------------|---|
| 授業科目名 児童文化 I (特別支援教育研究) HB3501KC | 担当教員名 山本 正俊 | 担当形態 単 独 | 授業方法 S | 単位数 必修 1 選択 | 開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 ■後期 □後期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 科目(区分) | 大学が独自に設定する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(特別支援教育研究)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| 回 | 教 | テーマ | 内 容 | | | |
| 1 | ガイダンス・クラス分けについて | 授業概要・評価の観点と授業計画について | | | | |
| 2 | 活動計画について | 本授業の活動における具体的な計画を立てる | | | | |
| 3 | 発表媒体作成・内容表現検討① | 各クラスで表現媒体(原案作成)を行う | | | | |
| 4 | 発表媒体作成・内容表現検討② | 各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る | | | | |
| 5 | 発表媒体作成・内容表現検討③ | 各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える | | | | |
| 6 | 発表媒体・内容表現作成 | 各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う | | | | |
| 7 | 中間発表① | 発表方法について試行する | | | | |
| 8 | 発表媒体・内容表現の見直し① | 発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う | | | | |
| 9 | 発表媒体・内容表現の見直し② | 中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う | | | | |
| 10 | 中間発表② | 改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える | | | | |
| 11 | 発表媒体・内容表現の仕上げ① | 改善点をふまえ修正・制作を行う | | | | |
| 12 | 発表媒体・内容表現の仕上げ② | リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う | | | | |
| 13 | 「創作発表会」リハーサル | リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する | | | | |
| 14 | 「創作発表会」 | 本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う | | | | |
| 15 | まとめ・振り返り | 「創作発表会」に対する反省と振り返り | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

Subject :Arts and Culture for Children I

| | | | | | | |
|---|--------------|-----------------|---|------------|---|---|
| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| 児童文化Ⅰ (心理研究) HB3501KC | 山脇 寛子 | 単 独 | S | 必修 1 選択 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | 大学が独自に設定する科目 | | | | | 教員の免許取得のための 必修科目 |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | | 保育士の資格取得のための 必修科目 |
| 【授業の概要】 保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(心理研究)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | △ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| フェーズ | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | ガイダンス・クラス分けについて | 授業概要・評価の観点と授業計画について | | | |
| | 2 | 活動計画について | 本授業の活動における具体的な計画を立てる | | | |
| | 3 | 発表媒体作成・内容表現検討① | 各クラスで表現媒体(原案作成)を行う | | | |
| | 4 | 発表媒体作成・内容表現検討② | 各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る | | | |
| | 5 | 発表媒体作成・内容表現検討③ | 各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える | | | |
| | 6 | 発表媒体・内容表現作成 | 各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う | | | |
| | 7 | 中間発表① | 発表方法について試行する | | | |
| | 8 | 発表媒体・内容表現の見直し① | 発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う | | | |
| | 9 | 発表媒体・内容表現の見直し② | 中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| | 10 | 中間発表② | 改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える | | | |
| | 11 | 発表媒体・内容表現の仕上げ① | 改善点をふまえ修正・制作を行う | | | |
| | 12 | 発表媒体・内容表現の仕上げ② | リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う | | | |
| | 13 | 「創作発表会」リハーサル | リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する | | | |
| | 14 | 「創作発表会」 | 本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う | | | |
| | 15 | まとめ・振り返り | 「創作発表会」に対する反省と振り返り | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 なし | | | 【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) | | | |

保 育 学 科 1 年

専 門 教 育 科 目

(レクリエーションインストラクター資格に関する科目)

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.37

| | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------------------|--------------|---|--|
| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
| レクリエーション概論 HC4101R | ◇ 沖村 文子 藤井 智行 | 複 数 | L | 必修 選択 2 | 1年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | レクリエーションインストラクター資格に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | 保育士の免許取得のための 選択科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、レクリエーションには、地域社会や職場、福祉、医療、教育等あらゆる分野と領域において幅広い活動があることを学びます。人間性豊かなレクリエーション・リーダーとなるために基本から現場での知識・技術を学びます。 | | | 【成績の評価方法】 レポート 60% 授業への参加度 40% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育者としてレクリエーション資格を目指し、多種多様にわたるレクリエーション活動の意義と活用を考える。 ・保育活動におけるレクリエーションの基礎理論、指導の理論、組織の経営論、サービス論等を中心に学習する。 ・日本レクリエーション協会公認、レクリエーション資格取得を目指す。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) | | | |
| | | | 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 | | ◎ | |
| | | | 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 | | ○ | |
| | | | 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 | | △ | |
| | | | 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 | | ◎ | |
| | | | 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 | | ○ | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | テーマ | 内 容 | | | | |
| 1 | レクリエーションの基礎理論① | レクリエーション支援とは | | | | |
| 2 | レクリエーションの基礎理論② | レクリエーション・インストラクターの2つの役割 | | | | |
| 3 | レクリエーションの基礎理論③ | 楽しさとおとした心の元気づくりと対象者の心の元気 | | | | |
| 4 | レクリエーションの基礎理論④ | 楽しさとおとした心の元気づくりの理解 | | | | |
| 5 | レクリエーションの基礎理論⑤ | ライフステージと心の元気づくり | | | | |
| 6 | レクリエーションの基礎理論⑥ | 子どもや高齢者の心の元気づくり | | | | |
| 7 | レクリエーションの基礎理論⑦ | 心の元気と地域のきずな | | | | |
| 8 | レクリエーション支援論① | 地域のきずなづくり | | | | |
| 9 | レクリエーション支援論② | 子どもを育む地域のきずな | | | | |
| 10 | レクリエーション支援論③ | 高齢者を支える地域のきずな | | | | |
| 11 | レクリエーション支援論④ | きずなづくりとレクリエーション | | | | |
| 12 | レクリエーション支援論⑤ | コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 | | | | |
| 13 | レクリエーション事業論① | 良好な集団づくりの理論 | | | | |
| 14 | レクリエーション事業論② | 自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 | | | | |
| 15 | レクリエーション事業論③ | まとめ | | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)体力をつけるために体調を整え規則正しい学生生活をしましょう。 (復習)学習を深めるためにキャンプ実習を3日間行います。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 授業前後の休憩時間に対応します。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 グループワーク、ディスカッションの形式の授業を行います。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 個別の感想・レポートは確認して返却します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 「楽しさを通した心の元気づくり」(日本レクリエーション協会) | | | | 【参考書等】 なし | | |

Subject :Theory of Recreation and leisure Services

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.38

| 授業科目名 | 担当教員名 | 担当形態 | 授業方法 | 単位数 | 開 講 時 期 | <input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目 |
|--|--------------------------|----------------------|--|--------------|---|--|
| レクリエーション演習 HC4102R | ◇ 沖村 文子 藤井 智行 | 複 数 | S | 必修 選択 2 | 1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 科目(区分) | レクリエーションインストラクター資格に関する科目 | | | | 教員の免許取得のための 選択科目 | |
| 施行規則等に定める 科目区分又は事項 | | | | | 保育士の資格取得のための 選択科目 | |
| 【授業の概要】 この授業では、レクリエーション概論での学びを現場で実践するために具体的な活動を学びます。また、リーダーとしての聴き方・伝え方・観方などを具体的に学びます。 | | | 【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 実技試験(含発表) 80% | | | |
| 【授業のテーマ及び到達目標】 ・実技の多様な実践、指導方法と指導技術の理解等を習得する。 ・健康で楽しいライフスタイルを築いていきたいと願う人間の指導者及び援助者になれるように学習する。 ・日本レクリエーション協会公認、レクリエーション資格取得を目指す。 | | | DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○ | | | |
| 【授業計画】 | | | | | | |
| チェック回数 | 回数 | テーマ | 内 容 | | | |
| | 1 | コミュニケーション・ワーク① | ホスピタリティとは | | | |
| | 2 | コミュニケーション・ワーク② | ホスピタリティトレーニング | | | |
| | 3 | コミュニケーション・ワーク③ | レポート形成について | | | |
| | 4 | コミュニケーション・ワーク④ | 非言語コミュニケーション | | | |
| | 5 | コミュニケーション・ワーク⑤ | アイスブレイキングについて | | | |
| | 6 | コミュニケーション・ワーク⑥ | プログラミングの原則 | | | |
| | 7 | コミュニケーション・ワーク⑦ | アイスブレイキング・モデルの実際 | | | |
| | 8 | コミュニケーション・ワーク⑧ | 実技演習 | | | |
| | 9 | 目的に合わせたレクリエーション・ワーク① | 目的に合わせるとは | | | |
| | 10 | 目的に合わせたレクリエーション・ワーク② | 素材・アクティビティの選択と枠組み | | | |
| | 11 | 目的に合わせたレクリエーション・ワーク③ | 素材・アクティビティの提供 | | | |
| | 12 | 対象に合わせたレクリエーション・ワーク① | 対象者に合わせるとは | | | |
| | 13 | 対象に合わせたレクリエーション・ワーク② | アレンジの技術 | | | |
| | 14 | 対象に合わせたレクリエーション・ワーク③ | 環境設定 | | | |
| | 15 | 総合演習 | 実技の実践と指導方法 | | | |
| <input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない | | | | | | |
| 【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)身の回りにあるレクリエーション材について情報を集めましょう。 (復習)学びを生かすための現場実習(あそびの日:春、あそびの広場:秋)での実践があります。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 授業前後の休憩時間に対応します。 | | | | | | |
| 【アクティブラーニングの授業手法】 実技体験中心の授業を行います。 | | | | | | |
| 【課題等への対応】 学んだことを個別に対応します。 | | | | | | |
| 【指定教科書】 「楽しさを通じた心の元気づくり」(日本レクリエーション協会) | | | | 【参考書等】 なし | | |